

(様式第10)

滋医大ク2-0第1号  
令和4年10月4日  
開設者名 国立大学法人滋賀医科大学長  
上本 伸二

厚生労働大臣 殿

開設者名

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
氏名	国立大学法人 滋賀医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

滋賀医科大学医学部附属病院
---------------

3 所在の場所

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
電話( 077 ) 548 - 2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	無						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
「脳神経内科」において、「神経内科」の診療を提供している。 「糖尿病内分泌内科」において、「内分泌内科」及び「代謝内科」の診療を提供している。 「血液内科」において、「感染症内科」の診療を提供している。 「呼吸器内科」、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」、「皮膚科」及び「小児科」において、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療を提供している。 「整形外科」において、「リウマチ科」の診療を提供している。							

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
「外科」において、「乳腺外科」、「内分泌外科」及び「小児外科」の診療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				無			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
「歯科口腔外科」において、「歯科」の診療を提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	病理診断科	3	形成外科	4	腫瘍内科	5	脳神経内科
6	糖尿病内分泌内科	7	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34	0	0	0	569	603

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	374	242	412.0	看護補助者	26	診療エックス線技師	0
歯科医師	19	18	19.6	理学療法士	19	臨床検査技師	80
薬剤師	41	3	42.3	作業療法士	6	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0.0	視能訓練士	7	その他	0
助産師	38	2	39.5	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	619	67	666.0	臨床工学士	16	医療社会事業従事者	7
准看護師	0	0	0.0	栄養士	0	その他の技術員	19
歯科衛生士	3	0	3.0	歯科技工士	0	事務職員	197
管理栄養士	13	1	13.0	診療放射線技師	34	その他の職員	8

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	10
外科専門医	31	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	7	放射線科専門医	20
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	17	救急科専門医	9
		合計	233

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 田中 俊宏 ) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成26年4月1日から令和2年3月31日まで、副病院長(医療安全等担当)として、医療安全管理部長、医療安全管理委員会副委員長の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	428.6 人	4.1 人	432.7 人
1日当たり平均外来患者数	797.4 人	50.8 人	848.2 人
1日当たり平均調剤数	763.4		剤
必要医師数	94		人
必要歯科医師数	4		人
必要薬剤師数	15		人
必要(准)看護師数	248		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	507.91 m <sup>2</sup>	耐火構造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	12 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	150.88 m <sup>2</sup>	病床数	7 床
	[移動式の場合]	台数	9 台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	29.78 m <sup>2</sup>		
	[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	123.55 m <sup>2</sup>	耐火構造	(主な設備)	血液ガス分析装置、生化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動血液凝固分析装置、自動血球分析装置、細胞解析システム、保冷库、超低温フリーザー、遠心機	
細菌検査室	95.50 m <sup>2</sup>	耐火構造	(主な設備)	血液培養装置、抗酸菌培養装置、細菌同定感受性検査装置、細菌同定装置、微生物由来成分分析装置、微生物分類同定分析装置、PCR検査装置	
病理検査室	74.75 m <sup>2</sup>	耐火構造	(主な設備)	自動染色装置、自動封入装置、凍結薄切作製装置、免疫染色全自動システム	
病理解剖室	77.88 m <sup>2</sup>	耐火構造	(主な設備)	写真撮影装置、TPSシステム、照明器具、滅菌装置、長靴側面・底洗浄機、病理検査用流し台テーブル	
研究室	4,804.00 m <sup>2</sup>	耐火構造	(主な設備)	蛍光顕微鏡、インキュベーター、PCR、安全キャビネット、遠心機	
講義室	636.00 m <sup>2</sup>	耐火構造	室数	3 室	収容定員 624 人
図書室	1,285.00 m <sup>2</sup>	耐火構造	室数	7 室	蔵書数 17.0万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.2	%	逆紹介率	71.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			11,467 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,252 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,208 人	
	D: 初診の患者の数			15,689 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に 関する業務に従事して いる	無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に 関する業務に従事して いる	無	1
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知 識に基づき教育・研究 業務に従事している	無	1
西川 甫	所属なし		医療を受ける者の立場 から意見を述べる	無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事(研究・企 画・国際担当)の立場で 意見を述べる	有	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事(教育・学生 支援・コンプライアンス 担当)の立場で意見を 述べる	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	病院ホームページに掲載している。





## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	次世代シークエンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	446人
当該医療技術の概要(循環器内科) 既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シークエンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	リアルタイム位相マッピング装置による心房細動の可視化診断	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(循環器内科・情報総合センター) 従来、心内電位波形しか記録できず治療法が未確立であった持続性心房細動に対して、本学の芦原らが発明したオンライン・リアルタイム位相マッピング装置(平成27年8月薬機承認)で心房細動の複雑な興奮動態を瞬時に映像化し、患者毎に異なる心房細動の持続メカニズムを診断することで、新たな治療戦略の確立を目指している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要(循環器内科) 自己心拍下にカテーテルを用いて生体弁を大動脈に留置する新しい治療。従来の外科手術で必要であった開胸や人工心肺使用が不要であるため、高齢者などのハイリスク患者への有用な治療法として期待している。			
医療技術名	高周波ホットバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、高周波電流で過熱されたバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	クライオバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、冷凍焼灼は亜酸化窒素ガスを使用したバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の植込み型除細動器(ICD)(平成28年薬機承認、保険適応)で、従来型のような心臓内リードを必要としないため、リードの感染や断線、血管閉塞や癒着など、リードそのものによるトラブルを無くすことができる。そのため、感染リスクの高い患者、若年の患者などにも適応が広がった。京滋奈良地区で初となるS-ICD手術は当院当科で実施した。			
医療技術名	リードレスペースメーカ植え込み術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の超小型ペースメーカ(平成28年薬機承認、保険適用)で、経静脈的にペースメーカ本体のみを心室内に植込むことのできるリードレスのMRI対応型ペースメーカである。リード断線やリード感染など、ペースメーカリードに関連する合併症の心配がなく、植込み後の患者負担も極めて低いことから、利用可能性が高まると期待される。			
医療技術名	経静脈的ペースメーカーリード抜去術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要(循環器内科) デバイス感染、デバイス治療合併症(リコール、断線、閾値上昇など)、アップグレード、高度の機能獲得のための不要リードの除去などの目的に従来は開胸で行っていた技術であるが、メカニカルシースを用いることで経静脈的に抜去する極めて難度の高い技術である。滋賀県下では当院が最初であり、症例数もいちばん多い。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎及びクローン病に対するvedolizumabの国際第3b相試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 潰瘍性大腸炎患者及びクローン病患者を対象にvedolizumab皮下注製剤の長期安全性及び有効性を検討する第3b相非盲検試験を行う。			
医療技術名	クローン病に対するFilgotinibの国際長期継続投与試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) クローン病患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験を行う。			



医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するFilgotinibの国際長期継続投与試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 潰瘍性大腸炎患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験を行う。			
医療技術名	クローン病に対するrisankizumabの国際二重盲検及び非盲検継続投与試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) クローン病患者を対象としてrisankizumabの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照52週間維持療法試験及び非盲検継続投与試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎又はクローン病に対するSHP647の国際第III相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 中等症から重症の潰瘍性大腸炎又はクローン病患者を対象としたSHP647の長期安全性を評価する第III相継続投与試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するrisankizumabの国際多施設共同試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者を対象としたrisankizumabの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照導入療法試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するrisankizumabの国際多施設共同試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 潰瘍性大腸炎患者を対象としてrisankizumabの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照52週間維持療法試験及び非盲検継続投与試験を行う。			
医療技術名	クローン病に対するBMS-986165の国際二重盲検第II相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 中等度から重度のクローン病患者を対象とした、BMS-986165の安全性及び有効性を検討する、プラセボ対照、ランダム化二重盲検第II相試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するOZANIMODの国際第2/3相ランダム化試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 日本人の中等症又は重症の活動性潰瘍性大腸炎患者を対象としてOZANIMODを経口投与したときの有効性及び長期安全性を評価する第2/3相多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照試験を行う。			
医療技術名	再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンボパグ療法 の有用性に関する検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 輸血を必要とする再生不良性貧血(stege 2b以上)に対して、ウサギATG、シクロスポリン、エルトロンボパグ併用の免疫抑制療法を施行することにより、血液学的奏功(完全寛解または部分寛解)への到達を前向きに検討し、さらに体細胞遺伝子変異の出現の種類と頻度、経時的な変異クローンの拡大の有無を検討する。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病に対する治療プロトコール ALL/MRD2019	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 急性リンパ性白血病に対して、寛解後の測定可能残存・微小残存病変の有無を指標にリスク別の寛解後療法を行うことにより、リスクに応じた移植適応の確率を図る。さらに、微小残存病変陽性のCD19陽性群またはフィラデルフィア陽性群におけるblinatumomabまたはponatinibを含む地固め療法により、微小残存病変陰性化を図ることによる治療成績の向上を試みる。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病治療におけるプレジジョンメディスン研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 成人急性リンパ性白血病の病態および薬剤感受性を規定する細胞・個体レベルの因子同定および造血幹細胞移植後の高感度キメリズム測定法の開発を行うことにより、成人急性リンパ性白血病治療における、将来のプレジジョンメディスン(精密医療)の基盤となる知見を得ることを試みる。			
医療技術名	再発急性前骨髄球性白血病(APL)に対するTamibarotene(Am80)と亜ヒ酸(ATO)の併用、寛解後療法としてgemtuzumab ozogamicin(GO)を用いた治療レジメンの有効性及び安全性検証試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 16歳以上 65歳未満の未治療急性前骨髄球性白血病(APL)の寛解例に対して、地固め療法として亜ヒ酸、gemtuzumab ozogamicinを用いた治療を行い、地固め療法が化学療法で施行された過去の JALSG APL プロトコールの historical data との比較を行う。			

医療技術名	ベクロメタゾン腸溶性カプセル	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 造血幹細胞移植後、急性腸管移植片対宿主病(GVHD)を対象疾患として、全身のステロイド使用量を減量するため、全身のステロイド投与とともに、局所療法としてベクロメタゾン腸溶性カプセルを院内調整し、1回1~2mgを1日4回内服する。			
医療技術名	アグレッシブATLにおける予後因子の検討と個別化医療の確立を目的とした全国一元化レジストリおよびバイオレポジトリの構築	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 共同研究機関で新規診断されたアグレッシブ成人 T 細胞白血病・リンパ腫(adult T-cell leukemia-lymphoma: ATL)患者を全例登録する全国一元化レジストリを構築し、日常診療における予後因子の現状について検討する多施設前向き観察研究を実施する。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経変性疾患の一部は遺伝性であり、診断確定には遺伝子診断が必要である。今後核酸治療の普及を踏まえ、当科では頻度の高い神経変性疾患の遺伝子診断を行っている。診断確定後の遺伝子カウンセリング体制も整えている。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するメチルコバラミン(E0302)の第 III 相臨床試験(医師主導治験)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(脳神経内科) ALSに対する高容量メチルコバラミンは発症早期からの投与によって進行を著明に抑制する可能性が示されたが、さらに症例数を増加させて効果の有無を検証する。			
医療技術名	進行期パーキンソン病に対するデュオドーパ経十二指腸持続投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 進行期パーキンソン病患者に於いて、OFF期の出現やジスキネジアが出現するが、内服治療は困難で煩雑である。デュオドーパを十二指腸への持続的経管投与を一定容量で行うことによって、著明な症状の安定化が得られる。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する集中リハビリテーションプログラム	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症は進行性で有効な内服治療の神経難病である。当科では4週間の独自の理学療法、作業療法、言語療法を集中的に行うプロトコルを有しており、小脳失調の機能や認知機能が改善が期待される。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症の上肢に対するSEMグローブ治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 筋萎縮性側索硬化症は進行性の筋萎縮と筋力低下を呈する神経難病である。脱力をきたした筋肉に過度な負荷を与えることはかえって進行を促進することが知られており、最適なリハビリテーションについては議論の分かれるところである。我々は抗重力以下の筋力である趣旨に、SEMという電気式アシストグローブを用いたリハビリテーションを行っている。即時効果の改善が期待される。			
医療技術名	アルツハイマー病に対する抗アミロイド抗体の国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経内科) アルツハイマー病に於いて疾患の原因の一つと考えられているアミロイドβの異常構造を特異的に認識する抗体(BAN2401)の有効性について、国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第III相臨床試験	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(小児科) 診断時年齢1歳以上65歳未満の初発B細胞性急性リンパ性白血病を対象として行う、JCCGとJALSG合同の多施設共同介入研究である。小児型の多剤併用化学療法を全年齢に適切な用量調整基準とともに適応し、分子遺伝学的診断およびMRDに基づいたリスク層別化を行うことで治療成績を向上させ、さらに以下についてランダム化比較試験により検証し、ALLの治療成績を改善することを目的とする。 ・低リスク(LR)群に対する化学療法減弱の非劣性を検証すること ・高リスク(HR)群に対するプリナツモマブ導入の優越性を検証すること ・患者特性に応じた最適な維持療法期間を検証すること			
医療技術名	小児、AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同後期第II相臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 本研究の主たる目的は、診断時65歳未満(1歳未満の乳児例を含む)の初発・未治療のT-ALLに対し、24歳までを対象としたALL-T11プロトコルの骨格を踏襲した小児型化学療法の安全性と有効性を明らかにすることである。年齢に応じた薬剤投与量の適正化を含んだ治療を行うことで、成人のT-ALLへと対象を拡大し、安全性を高めつつ治療成績の向上を図る。さらにL-aspl活性測定に基づくL-aspl不活化症例の同定、髄注療法の強化による頭蓋照射の撤廃、FCM-MRD定量によるリスク層別化の意義を検証する。			

医療技術名	小児急性骨髄性白血病を対象とした微小残存病変を用いた層別化治療、および非低リスク群に対する寛解導入後治療におけるゲムツズマブオゾガマイシン追加の有効性及び安全性を検討するランダム化比較第III相臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 小児 de novo 急性骨髄性白血病(AML)を対象として、細胞遺伝学的異常と寛解導入療法後の形態学的治療反応性および微小残存病変(MRD)を層別化因子とし適切な強度の治療の実現を目的とする。低リスク群(LR 群:Core binding factor(CBF)-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陰性かつ FLT3-ITD 陰性)においては、治療成績を担保しつつ治療毒性を軽減することを目的とする。中間リスク群(IR群:CBF-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陽性もしくは FLT3-ITD 陽性、または予後不良細胞遺伝学的異常を有さない非 CBF-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陰性)および高リスク群(HR群:予後不良細胞遺伝学的異常を有する AML、予後不良細胞遺伝学的異常を有さない非 CBF-AMLかつ初回寛解導入療法後 MRD 陽性、または初回寛解導入療法後非寛解)については、強化療法でGemtuzumab ozogamicin (GO)投与群と GO 非投与群のランダム化比較試験を行い、GO 投与の有効性と安全性について検証する。			
医療技術名	横紋筋肉腫中間リスク群患者に対するVAC2.2 (ビンクリスチン、アクチノマイシン D、シクロホスファミド 2.2 g/m <sup>2</sup> /VI (ビンクリスチン、イリノテカン)療法の有効性及び安全性の評価第II 相臨床試験実施計画書	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) Stage 2、3、Group IIIに分類される胎児型横紋筋肉腫、Group I、II、または、Stage1、Group IIIに分類される胞巣型横紋筋肉腫の中間リスク群の患者に対する、VAC2.2療法(ビンクリスチン、アクチノマイシンD、シクロホスファミド2.2 g/m <sup>2</sup> )、VI療法(ビンクリスチン、イリノテカン)の交代療法の有効性と安全性を評価する。			
医療技術名	Paediatric Hepatic International Tumour Trial 小児肝臓に対する国際共同臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 小児肝臓がん試験を実施している3つの大きな臨床研究グループであるSIOPEL,COG,JCCGが共同で行う試験である。低リスク群では治療軽減が可能か、中間リスクと高リスクでは異なる治療レジメンを比較することを目的としている。			
医療技術名	非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍に対して強化髄注短期決戦型化学療法とチオテパ/メルファラン大量化学療法後に遅延放射線治療を行う集学的治療レジメンの安全性と有効性を検討する第 II 相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 多施設共同試験として集学的治療を行う事で、本邦での非定型奇形腫瘍ラブドイド腫瘍(ATRT)の治療成績の向上を計るとともに、今後の治療開発において不可欠な前向きコホートの臨床情報を得る。			
医療技術名	頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(小児科) 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、タクロリムス治療がシクロスポリン治療に対して無再発期間において非劣性であることを検証し、タクロリムス治療とシクロスポリン治療の有害事象を比較する。			
医療技術名	小児期発症のネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(小児科) 小児期発症のネフローゼ症候群の患者(頻回再発型あるいはステロイド依存性と診断された場合)を対象として、治験薬 IDEC-C2B8を1週間間隔で2回投与した際の有効性を検証し、安全性を評価する。			
医療技術名	Spesolimabの先行試験を完了した掌蹠膿疱症(PPP)患者を対象としたSpesolimabの非盲検、単一群、長期投与試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(皮膚科) 掌蹠膿疱症に対する抗IL-36抗体製剤であるSpesolimabの国際第2相ランダム化二重盲検比較試験後の安全性を検討した長期投与試験			
医療技術名	消化器がんに対するがん遺伝子パネル検査に基づいた保険適応外抗癌剤による化学療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器外科) がんゲノム医療連携病院として、消化器がん患者に対するがん遺伝子パネル検査の提供を行い、遺伝子変異、ガイドラインに基づいた抗がん剤を選択し、保険適応外である場合、高難度医療・未承認医薬品等管理室の承認を得て治療を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除に対する、術前血管造影下インドシアニングリーン投与による手術ナビゲーションの検討	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器外科) 腹腔鏡下肝切除の術前、血管造影下で切除予定区域の動脈にインドシアニングリーンを投与し、塞栓することによって、手術ナビゲーションを行う。			

医療技術名	脳血管内治療での脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、脳腫瘍に対するNBCA リピオドール塞栓術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、脳腫瘍などの疾患では外科手術中に血管の異常、並びに病変に入り込む血管から大量に出血する可能性がある。これらを事前に閉塞しておくことで術中出血を最小限にとどめ、手術をより安全かつ、確実なものにすることができる。			
医療技術名	卵巣過剰刺激症候群予防のためのレルゴリクス内服	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要(女性診療科) 卵巣過剰刺激症候群(OHSS)は体外受精技術を用いた卵子獲得後に生じる合併症で、卵巣刺激や卵成熟を目的とした薬剤使用後10%に生じる。症状として、卵巣の腫大、血管透過性の亢進による胸腹水の貯留を認め、血管内脱水を来す。血栓症が生じる可能性もあり、補液や抗血栓療法等が必要となる。レルゴリクスはGnRHアンタゴニスト製剤であり、OHSSの改善に寄与する製剤である。使用によりOHSS治療の早期離脱もしくは治療が不要となる可能性があり、身体的負担の軽減に有用である。			
医療技術名	真菌性眼内炎に対するジフルカン硝子体注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) 真菌性眼内炎はそのほとんどが全身の真菌感染症に続発し、不可逆的な視機能障害をきたす重篤な疾患である。抗真菌薬の全身投与が行われるが、病勢に対しては即効性や効果に乏しいため、直接硝子体内へ投与を行い治療効果を期待するものである。			
医療技術名	サイトメガロウイルス網膜炎に対するデノシン硝子体注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) サイトメガロウイルス感染症に伴う合併症に網膜炎があるが、全身の免疫機能が低下していることが多く、網膜炎の進行は急激で、視機能に障害を残す疾患である。全身投与では病勢を止めることができないことがあり、デノシンを直接硝子体内に投与することで病態の改善を図るものである。			
医療技術名	細菌性眼内炎に対するバンコマイシン・セフトラジウム硝子体注射	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(眼科) 細菌性眼内炎は、眼内手術後や全身の細菌感染巣からの2次感染、角膜潰瘍や外傷などによる眼内への細菌の侵入を起点とし、数日で失明に至る重篤な疾患である。バンコマイシンとセフトラジウムの硝子体注射が最優先の治療になり、数日あけて複数回投与を行うことが多い。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜炎に対する光線力学療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) 中心性漿液性脈絡網膜炎は中高年に発症し、漿液性網膜剥離をきたす疾患である。黄斑下に病態が及ぶことが多く、保存的に経過観察を行うことが多い。近年、加齢黄斑変性に対する光線力学療法を応用して治療を行う方法が提示され、治療効果が期待できるようになっている。			
医療技術名	tPAを用いた血腫移動術及び血腫除去術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(眼科) 網膜下血腫の自然予後は極めて不良であり、早急な治療が必要である。tPAは血腫を溶解させる作用を有しているが、tPAと硝子体内ガス注入の組み合わせ、あるいはtPAを用いた黄斑下手術を行うことにより、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	血管新生緑内障に対するBevacizumab治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(眼科) 血管新生緑内障は重篤な網膜疾患に続発して生じる非常に難治性の緑内障である。その治療には光凝固術により網膜疾患の活動性を低下させることが行われているが、重症の場合、光凝固で網膜炎の病勢を止めることができず、眼圧のコントロールができず失明に至ることも少なくない。非常に難治の血管新生緑内障に対して、眼圧をコントロールし、失明回避のため抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果を期待する。			
医療技術名	重症の糖尿病網膜症の手術前処置としてのbevacizumab治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(眼科) 重症の糖尿病網膜症に対する硝子体手術は眼科手術において最も何度が高い手術の一つである。術中の出血を抑制するために、術前にbevacizumabを硝子体内注射する。本処置により、術中合併症が減少し成績が向上する。			
医療技術名	黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動と血液の併用術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) 難治性の黄斑円孔網膜剥離に対して、内境界膜フラップを円孔内に挿入し、その受けに自己血液を塗布し、網膜の復位を得る。			

医療技術名	吸入麻酔薬による術後鎮静	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(麻酔科) 吸入麻酔薬とその気化器を用いたICUにおける鎮静の臨床使用を倫理委員会の承認を得て、本邦ではじめて行った。鎮静の質が高く、臓器保護作用の期待できる鎮静法として期待されている。気化器はPMDA承認を得ることができ、今後は吸入麻酔薬による鎮静の適応を取得する準備を進めている。			
医療技術名	慢性疼痛に対する集学的治療	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 難治性の慢性疼痛に対して、集学的な評価、カンファレンスを行い、適切なチーム医療を行っている。			
医療技術名	血管内治療におけるヒストアクリル、リピオドールの使用	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(放射線科) 外傷や医原性による腹腔内出血や胸腔内出血などの血管内治療において、凝固能異常がある症例や出血血管が微細でカテーテルが到達困難な症例、出血量が多く、瞬時に目的とする血管を閉塞する必要がある症例などで行われる。ヒストアクリルとリピオドールを適度な濃度で混ぜ合わせ投与することで血管内投与後の凝固時間を調節できる。ただ、使用には、ある程度の経験が必要であり、血流速度や血管径、血管走行を熟知して混合比を決定・投与しないと意図しない遠位の塞栓や近位の塞栓、過剰な領域の塞栓、カテーテルの血管への固着が起り得るため、比較的高い技術が必要となる。			
医療技術名	フラットパネルを用いた胸部動的撮影	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 胸部を息止めのうえ8秒程度専用のフラットパネルで撮影し、画素値の解析を行うことで、肺野の血流を評価することが可能であり、急性肺塞栓、慢性肺塞栓、原発性肺高血圧などの肺血流に異常をきたす疾患の診断、評価が可能になる。当院よりは動物実験で肺塞栓モデルの猿の診断が可能であることを示し、急性肺塞栓の診断と治療経過の確認ができた症例を報告した。			
医療技術名	AnaConDa systemを用いた集中治療室でのセボフルラン吸入麻酔	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部、麻酔科) セボフルラン吸入麻酔は手術中に通常行われる医療行為であるが、集中治療において保険適応がない。AnaConDa systemを用いると集中治療室で通常使う人工呼吸器でセボフルラン吸入麻酔を行うことができる。集中治療室においてセボフルラン吸入麻酔を行うと、通常使用する静注麻酔薬よりも速やかに麻酔を導入し、速やかに覚醒させることができる。よって集中治療室での鎮静方法のオプションが増えることになる。本医療技術は麻酔科と共同で行っている。			
医療技術名	急性呼吸窮迫症候群、急性右心不全に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 一酸化窒素吸入療法は新生児の肺高血圧や、心臓手術後の肺高血圧に対して保険適応があるが、急性呼吸窮迫症候群や、心臓手術後以外の急性右心不全に対しては保険適応がない。急性呼吸窮迫症候群、心臓手術後以外の急性右心不全に対して一酸化窒素吸入療法を行うことにより酸素化が改善し、高濃度酸素による肺障害を防ぐことができ、肺動脈圧を低下させることで循環動態を改善することができる。			
医療技術名	低カリウム血症を伴う慢性腎不全患者の血液透析における院内製剤(26%塩化カリウム水溶液)の調剤と使用	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要(血液浄化部) 透析に伴う低カリウム血症を予防するため、院内で調剤した塩化カリウム製剤を透析液に混入し、既存の透析液カリウム濃度2.0mEq/Lから3.0mEq/Lに補正する。			
医療技術名	薬物の治療効果・副作用を規定する遺伝子多型の解析と投与量設計	取扱患者数	316人
当該医療技術の概要(薬剤部) 薬物の代謝(分解)に関わる酵素の遺伝子が多型に変異することにより、薬物の効果や副作用の発現に個人差が生じることが知られている。薬剤部では、当該薬物服用患者について、遺伝子多型の測定及び、その結果に基づく投与量設計を行っている(対象:45薬物、9遺伝子多型)。本検査は院内でのコンセンサスを取得しており、電子カルテ上よりオーダー可能となっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	58
取扱い患者数の合計(人)	1,271

## 高度の医療の提供の実績等

(様式第2)

### 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	36
2	筋萎縮性側索硬化症	79	57	特発性拡張型心筋症	57
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	2
5	進行性核上性麻痺	27	60	再生不良性貧血	25
6	パーキンソン病	195	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	18	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	41
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリエ・トウース病	1	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	51	66	IgA 腎症	50
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	33
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	38	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	29	69	後縦靱帯骨化症	51
15	封入体筋炎	9	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	52
17	多系統萎縮症	44	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	50	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	14	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	39	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	58
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	34	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	40
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	46
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	14	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	25	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	26
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	326
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	495
43	顕微鏡的多発血管炎	7	98	好酸球性消化管疾患	6
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	106	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	69	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	39	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	12	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	21	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績等

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	24
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	3	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳 動脈症	0	173	VATER症候群	0
124		0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん 性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウエルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳	1	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	3

## 高度の医療の提供の実績等

(様式第2)

### 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	2	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	6	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	47	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿管症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	5	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	3
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	6	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性隣炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	26



## 高度の医療の提供の実績等

(様式第2)

### 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	6
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 $\beta$ リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

取扱疾患件数	119
患者数計	2,689

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・呼吸ケアチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟、7対1入院基本料)	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟、7対1入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算2
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1)	・認知症ケア加算
・急性期看護補助体制加算(25対1:看護補助者5割未満)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による治療の場合)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・地域医療体制確保加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科治療時医療管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ウイルス疾患指導料	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する	・仙骨神経刺激装置植込術・交換術(便失禁に対して実施する場合)
・喘息治療管理料	・仙骨神経刺激装置植込術・交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・糖尿病合併症管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん性疼痛緩和指導管理料	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・がん患者指導管理料イ	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・がん患者指導管理料ロ	・網膜再建術
・がん患者指導管理料ハ	・人工中耳植込術
・がん患者指導管理料ニ	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来緩和ケア管理料	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・婦人科特定疾患治療管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・一般不妊治療管理料	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・生殖補助医療管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・外来放射線照射診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来腫瘍化学療法診療料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・連携充実加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・禁煙補助治療システム管理料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
・外来排尿自立指導料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)

・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胸腔鏡下弁形成術
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・経カテーテル大動脈弁置換術
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下弁置換術
・薬剤管理指導料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・医療機器安全管理料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・精神科退院時共同指導料	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・遺伝学的検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・染色体検査の注2に規定する基準	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・骨髄微小残存病変量測定	・経皮的下肢動脈形成術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・先天性代謝異常症検査	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下肝切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・光トポグラフィー	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・神経学的検査	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ロービジョン検査判断料	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・遠隔画像診断	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・精巣内精子採取術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・無心体双胎焼灼術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・体外式膜型人工肺管理料
・摂食機能療法の注3に規程する摂食嚥下機能回復体制加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・歯科口腔リハビリテーション料2	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・リンパ浮腫複合的治療料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・児童思春期精神科専門管理加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・療養生活環境継続支援加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・救急患者精神科継続支援料	・輸血管管理料Ⅱ
・認知療法・認知行動療法1	・コーディネート体制充実加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・同種クリオプレシピレート作製術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・自己生体組織接着剤作成術

・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・口腔粘膜処置	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・口腔粘膜血管腫凝固術	・歯周組織再生誘導手術
・レーザー機器加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・多血小板血漿処置	・麻酔管理料(Ⅰ)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・放射線治療専任加算
・人工腎臓	・外来放射線治療加算
・導入期加算1	・高エネルギー放射線治療
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・1回線量増加加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度蛋白を呈する糖尿病腎症に対するLDLアフェレシス療法	・強度変調放射線治療(IMRT)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・CAD/CAM冠	・定位放射線治療
・センチネルリンパ節加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・自家脂肪注入	・保険医療機関間の連携による病理診断
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・病理診断管理加算2
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・デジタル病理画像による病理診断
・椎間板内酵素注入療法	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下腫瘍摘出術	・歯科矯正診断料
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変(MRD)量測定	・
・前眼部三次元画像解析	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査(進行再発固形がん)	・
・多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	101回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	27
	剖検率(%)	12.2

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
うつ血性心不全(心性浮腫)患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究 [GOREISAN for Heart Failure Trial(GOREISAN-HF Trial)]	酒井 宏	循環器内科	1,100,000	補	一般財団法人生産開発科学研究所
実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステントとエベロリムス溶出性ステントの有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験:長期追跡試験【NOBORI Biolimus-Eluting versus XIENCE/PROMUS Everolimus-eluting Stent TrialExtended Follow-up】	中川 義久	内科学講座(循環器内科)	242,000	補	一般財団法人生産開発科学研究所
少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM 患者に対するILD 療法の効果と安全性(W-JHS MM02)	南口 仁志	輸血部	36,300	補	一般社団法人九州臨床研究支援センター
Anamorelin投与が非小細胞肺癌患者への複合免疫療法に与える影響の前向き観察研究 (SPIRAL-ANA study)	内田 泰樹	呼吸器内科	22,000	補	一般社団法人九州臨床研究支援センター
Anamorelin投与が非小細胞肺癌患者への複合免疫療法に与える影響の前向き観察研究 (SPIRAL-ANA study)	花岡 淳	外科学講座(呼吸器外科)	22,000	補	一般社団法人九州臨床研究支援センター
新規基盤技術によるウイルス感染症に対するユニバーサル治療薬の開発	伊藤 靖	病理学講座(疾患制御病態学部門)	5,460,000	補	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業費補助金	福井 聖	ペインクリニック科	9,500,000	補	厚生労働省
慢性の痛み対策推進事業補助金	福井 聖	ペインクリニック科	3,200,000	補	滋賀県



循環器病対策推進事業補助金	野崎 和彦	脳神経外科学講座	9,350,000	補 委	滋賀県
令和3年度心不全在宅療養体制整備事業補助金	八木 典章	循環器内科	1,200,000	補 委	滋賀県
糖代謝臓器における細胞内糖鎖修飾の網羅的機能解析－生理機能から糖尿病の病態まで	前川 聡	内科学講座（糖尿病 内分泌・腎臓内科）	3,120,000	補 委	日本学術 振興会
難治癌の迅速病態診断リキッドバイオプシーの開発とプレジジョン医療への応用	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	5,070,000	補 委	日本学術 振興会
ALSに対する一本鎖治療抗体分泌型オリゴデンドロサイト前駆細胞移植治療法の開発	漆谷 真	内科学講座（脳神経 内科）	3,510,000	補 委	日本学術 振興会
ヒノキ花粉症の根治を目指すスギ花粉舌下免疫療法の分子機序解明のための総合的研究	清水 猛史	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座	4,030,000	補 委	日本学術 振興会
新規リン脂質量法を用いた動脈硬化性疾患のリバーストランスレーショナルリサーチ	森田 真也	薬剤部	4,680,000	補 委	日本学術 振興会
カロリー制限に学ぶ健康寿命延伸への挑戦-未知なるケトン体の生理作用を解明する-	久米 真司	腎臓内科	7,410,000	補 委	日本学術 振興会
認知機能低下に関する修正可能な因子の特定：マルチモーダルな生体データの利用	角谷 寛	精神医学講座	6,110,000	補 委	日本学術 振興会
子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	松尾 雅博	精神科	260,000	補 委	日本学術 振興会
子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	阪上 由子	小児科学講座（小児 発達支援学部門）	520,000	補 委	日本学術 振興会
子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	眞田 陸	精神医学講座	390,000	補 委	日本学術 振興会

連続体バイオメカニクスによる全脳循環代謝動態の解明と脳血管障害の病態解析	渡邊 嘉之	放射線医学講座	650,000	補 委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた新世代統合的評価法による薬物誘発性不整脈の病態解析	芦原 貴司	情報総合センター	325,000	補 委	日本学術振興会
体内微生物の脳動脈瘤の発生・破裂への影響の解明と新しい予防医療の開発	野崎 和彦	脳神経外科学講座	130,000	補 委	日本学術振興会
児童・生徒を対象にした睡眠生活リズムと心身の発達や学校適応の関連について	角谷 寛	精神医学講座	260,000	補 委	日本学術振興会
成熟したヒトiPS細胞由来心筋細胞の開発と創薬への展開	芦原 貴司	情報総合センター	156,000	補 委	日本学術振興会
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	福山 恵	内科学講座（循環器内科）	130,000	補 委	日本学術振興会
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	加藤 浩一	循環器内科	130,000	補 委	日本学術振興会
蹴り出し推進型短下肢装具の開発-中足指節関節の伸曲両立性を担保できるソール素材-	山中 雄翔	リハビリテーション部	65,000	補 委	日本学術振興会
フェーズアテンションネットを用いた弱教師学習による肝臓腫瘍性病変の診断支援	金崎 周造	放射線医学講座	260,000	補 委	日本学術振興会
医療ビッグデータを用いたTriple Whammyによる急性腎障害リスクの検討	國津 侑貴	薬剤部	470,000	補 委	日本学術振興会

位相分散解析と不整脈の臨床的可視化手法の統合による慢性心房細動の多元的治療戦略	芦原 貴司	情報総合センター	975,000	補委	日本学術振興会
早産低出生体重児に向けた胎盤型ECMOシステム開発：有効性と安全性の検証	稲富 絢子	母子診療科	800,000	補委	日本学術振興会
リアノジン受容体遺伝子異常による遺伝性心臓疾患の病態解明	福山 恵	内科学講座（循環器内科）	1,430,000	補委	日本学術振興会
難治性がん性腹水・胸水治療のための新規免疫細胞療法の開発	小島 正継	外科学講座（消化器外科）	1,300,000	補委	日本学術振興会
グリオーマ幹細胞におけるQuiescence獲得機構の解明に関する研究	深見 忠輝	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒストン脱アセチル化酵素HDAC2,3バランスに着目した抗うつ効果機構の解明	大久保 雅則	精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
先天性QT延長症候群の遺伝子変異に基づく病態評価と治療法の確立	八木 典章	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
HER2陽性乳癌抗体治療による細胞性免疫誘導と新規免疫治療の開発	北村 美奈	乳腺・小児・一般外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
メタゲノミクス解析を用いた大腸癌肝転移巣における細菌叢解析と病理学的意義の解明	森 治樹	腫瘍センター	1,820,000	補委	日本学術振興会

サルコペニア合併高齢保存期CKD患者の食事療法の開発	武田 尚子	腎臓内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
リアルタイムリンパ管蛍光造影ナビゲーションを用いたリンパ浮腫治療と制御への応用	河合 由紀	外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）	1,430,000	補 委	日本学術振興会
腸内細菌叢による短鎖脂肪酸生成がCOPD患者の運動耐容能に与える影響の検討	黄瀬 大輔	呼吸器内科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
癌細胞におけるFAP $\alpha$ 発現の意義の機能解析	清水 智治	医療安全管理部	1,820,000	補 委	日本学術振興会
MRI・蛍光デュアルイメージングを可能にする高分子ポリマー型造影剤の開発	貝田 佐知子	消化器外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
シェディング活性化因子ナルディライジンの血管平滑筋収縮機構における役割	木下 武	外科学講座（心臓血管・呼吸器外科）	1,560,000	補 委	日本学術振興会
心臓チャネル病における麻酔薬の心臓作用の包括的解析	小嶋 亜希子	麻酔学講座	1,560,000	補 委	日本学術振興会
遺伝性不整脈を呈する変異体Nav1.5チャネルに対する揮発性麻酔薬の修飾作用	福島 豊	手術部	1,300,000	補 委	日本学術振興会
サルコペニアと疲労の関連に着目した高齢癌患者の治療指針となるバイオマーカーの探索	河内 明宏	泌尿器科学講座	1,820,000	補 委	日本学術振興会
生体吸収性2層性尿管チューブ及び新規尿漏れ防止材による尿管組織の再生	吉田 哲也	泌尿器科学講座	1,560,000	補 委	日本学術振興会
帝王切開癒痕症候群の病態解明と予防法立案の総合的研究	村上 節	産科学婦人科学講座（女性）	1,430,000	補 委	日本学術振興会
上気道炎症に対するエイコサペンタエン酸代謝物の作用についての基礎研究	戸嶋 一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会

III度熱傷後難治性潰瘍に皮膚ユニットを再生させるための新規細胞治療の開発	岡野 純子	形成外科学講座	1,300,000	補 委	日本学術振興会
尿蛋白クレアチニン比を用いた、新たな学校検尿システムの構築	坂井 智行	小児科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
肝細胞がん治療薬レンバチニブのTDM確立を目指した臨床薬理学的研究	野田 哲史	薬剤部	1,560,000	補 委	日本学術振興会
肺癌に対する放射線化学療法後デュルバルマブ投与時の肺臓炎予後予測モデルの構築	内田 泰樹	内科学講座（呼吸器内科）	1,300,000	補 委	日本学術振興会
シヌクレイン- $\gamma$ による癌転移機序の解明	谷 総一郎	消化器外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
EBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症における分子生物学的検討	坂本 謙一	小児科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
SNTA1変異による早期再分極症候群発症メカニズムの解明に関する研究	加藤 浩一	循環器内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
リアノジン受容体チャネル変異陽性QT延長症候群の診断と発症メカニズムに関する研究	藤居 祐介	循環器内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
膵癌における癌周囲間葉系細胞の分類と機能解析	前平 博充	外科学講座（消化器外科）	1,430,000	補 委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂機序の解明	宮田 悠	脳神経外科学講座	1,950,000	補 委	日本学術振興会
がん増殖関連蛋白GGCTを標的とした腎がんに対する新規治療の開発	窪田 成寿	泌尿器科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
特異的組織標的ペプチドを用いた前立腺癌新規治療法の開発	和田 晃典	泌尿器科	1,430,000	補 委	日本学術振興会

慢性子宮内膜炎が子宮内 膜免疫担当細胞に及ぼす 影響の解析	北澤 純	女性診療科	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
難治性不妊治療の臨床応 用を目的とした雄性生殖 細胞の改良法に関する研 究	岸田 和美	母子診療科	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
ALSにおけるミトコンド リア障害とRNAヘリカー ゼの関連	引網 亮太	内科学講座（脳神経 内科）	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
Carboxylesterase 1を標 的とした新規腎脂質代謝 改善薬の探索	菅原 翔	内科学講座（糖尿病 内分泌・腎臓内科）	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
非小細胞肺がんのがん間 質における低酸素応答の 解析とがん免疫治療への 応用	寺本 晃治	臨床腫瘍学講座	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
精神疾患合併妊産婦を対 象とした向精神薬治療を 血液胎盤関門や母乳栄養 から検討する	藤井 久彌子	精神医学講座	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
生理的黄疸の中樞神経作 用メカニズムの解明	森宗 孝夫	小児科	2,340,000	補 委	日本学術 振興会
オートファジーに着目し た糖尿病性腎臓病治療薬 の開発	山原 真子	医師臨床教育セン ター	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
膿疱症におけるIL-36カ スケードの解明	藤本 徳毅	皮膚科学講座	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
消化管におけるケトン体 産生の生理学的意義と2 型糖尿病との関連を解明 する。	藤田 征弘	糖尿病内分泌内科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
消化器癌のリンパ節転移 における細網線維芽細胞 の意義と機能解析	谷 眞至	外科学講座（消化器 外科）	2,210,000	補 委	日本学術 振興会
腫瘍新規抗原特異的なT 細胞レセプター遺伝子導 入T細胞による養子免疫 細胞療法の開発	村田 聡	腫瘍センター	2,340,000	補 委	日本学術 振興会

虚血再灌流傷害時の心筋間質サイトカイン濃度上昇に麻酔薬が及ぼす影響	北川 裕利	麻酔学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
睡眠障害患者に対する睡眠治療は、痛み閾値に影響を与えるか?	伊藤 一樹	麻酔学講座	2,730,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液の新規流体解析を用いた正常圧水頭症の病態解明	山田 茂樹	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症に対する新しい骨化抑制療法に向けたエビジェネティクス解析	彌山 峰史	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
抗癌標的分子GGCT阻害によるグルタチオン関連分子変動の網羅的解明	影山 進	泌尿器科	2,080,000	補委	日本学術振興会
代謝型グルタミン酸受容体を介した射精調節の神経回路	馬杉 美和子	泌尿器科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症に対するラクトフェリンに着目した治療法の開発	中村 暁子	女性診療科	2,210,000	補委	日本学術振興会
卵巣明細胞癌に対する機能性ナノ粒子を応用した新規治療法の開発	天野 創	女性診療科	2,210,000	補委	日本学術振興会
レセプトデータで明らかにする、母体の疾患および治療と児の長期予後の関連	笠原 恭子	母子診療科	2,210,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌叢(特にAM菌)と肥満・糖尿病外科手術後減量・糖尿病改善効果の関連の解明	山口 剛	消化器外科	3,250,000	補委	日本学術振興会
レム睡眠行動障害の不快な夢体験に関する神経生理的背景の解明	角 幸頼	精神医学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
HER2陽性乳癌前臨床モデルでのアプスコパル効果による治療法確立及びその画像評価	青木 健	放射線科	1,430,000	補委	日本学術振興会

川崎病モデルマウスの胸腺における中枢性トレランスの病態への影響の検討	佐藤 知実	医師臨床教育センター	2,340,000	補委	日本学術振興会
新規タイピング手法を用いたクローン病に関連した大腸菌群の特定とその機能解析	大野 将司	内科学講座（消化器・血液内科）	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床不整脈映像化システムによる非発作性心房細動の駆動メカニズムの解明	坂田 憲祐	内科学講座（循環器内科）	1,820,000	補委	日本学術振興会
細胞内栄養シグナルに着目した慢性腎臓病新規治療標的の探索	桑形 尚吾	腎臓内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
LPL欠損マウスを用いた慢性腎臓病における脂質代謝異常の役割の解明	佐々木 裕紀	血液浄化部	2,340,000	補委	日本学術振興会
3次元細胞培養による胃癌術中散布癌細胞の腹膜生着機序の解明と個別化治療への応用	竹林 克士	消化器外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
精巣内分泌機能の改善・再構築に向けた基礎および臨床的検討	富田 圭司	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ゲノム情報の高速機能診断法の確立と癌プレシジョン医療の開発	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
蛋白翻訳後修飾O-GlcNAc修飾の腎生理ならびに糖尿病性腎臓病における役割	金崎 雅美	血液浄化部	1,040,000	補委	日本学術振興会
急性白血病におけるスーパーエンハンサーを介した転写因子ネットワーク異常の解明	河原 真大	血液内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
腸上皮組織におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明	卯木 智	内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓内科）	1,170,000	補委	日本学術振興会
分子ライブイメージングを用いた脳動脈瘤増大破裂機序の多面的解析と新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会



糖尿病性腎臓病を含めた糖尿病患者の実態・リスク・長期予後の時代変遷による影響	横山 宏樹	内科学講座（糖尿病内内分泌内科）	1,040,000	補委	日本学術振興会
非活性型TGF $\beta$ （LAP）陽性免疫細胞に着目した尿路上皮癌免疫治療の新規開発	村井 亮介	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
多臓器不全におけるサイトケラチン7（CK7）陽性細胞の役割の解明	加藤 文崇	救急・集中治療部	1,040,000	補委	日本学術振興会
生体内で脂肪に置換される吸収性材料の開発	荻野 秀一	形成外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来プロインスリン陽性細胞と老化細胞の関係性の探索	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
細胞膜イオンチャネルの網羅的解析による関節変性疾患診断法および抑制療法の開発	熊谷 康佑	整形外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎におけるNADPHオキシダーゼの役割	神前 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
リンパ管蛍光可視化画像によるリンパ流路マッピングとリンパ浮腫ドレナージ手技の評価	服部 聖子	看護部 管理室	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規バイオアッセイ法を用いたグルカゴン及びグルカゴン関連ペプチドの生理活性の評価	柳町 剛司	内科学講座（糖尿病内内分泌内科）	1,040,000	補委	日本学術振興会
好酸球性鼻副鼻腔炎の免疫抑制における制御性T細胞と抑制性サイトカインの役割の解明	山本 小百合	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌・真菌叢の相互作用に着目した腭線維化進展機序の解明	稲富 理	消化器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
神経前駆細胞の異常による水頭症モデルマウスを用いた病態解明	黒田 杏理	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会

AIによる、教育と医療で共有可能なADHDスクリーニング及び治療適正化方法の開発	阪上 由子	小児科学講座（小児発達支援学部門）	230,000	補委	日本学術振興会
二重標識水法を用いた筋萎縮性側索硬化症患者のエネルギー代謝に関する臨床研究	栗原 美香	栄養治療部	390,000	補委	日本学術振興会
メタゲノム解析を用いた腸線維化と腸内細菌叢の関連の探索	藤本 剛英	消化器内科	910,000	補委	日本学術振興会
胃酸分泌抑制下におけるC. difficile感染症発症機序の解明と予防策の構築	大塚 武人	内科学講座（消化器内科）	130,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫分子病理診断の革新と治療	森谷 鈴子	病理部	910,000	補委	日本学術振興会
後方散乱光検出型ESP測定装置の臨床検査医学への展開	遠藤 善裕	外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）	780,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病の新規バイオマーカーとしての尿中NAD代謝関連分子の検証	荒木 信一	内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓内科）	910,000	補委	日本学術振興会
慢性疼痛患者のVBM、扁桃体MR Spectroscopyを用いた脳内病態評価	福井 聖	ペインクリニック科	780,000	補委	日本学術振興会
多臓器不全における骨髄前駆細胞の役割の解明	田畑 貴久	救急集中治療医学講座	650,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤モデルサル樹立による脳動脈瘤新規治療法開発基盤整備	辻 敬一	脳神経外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
エネルギー代謝を標的にした転移浸潤性膀胱癌に対する新規抗癌剤の開発	金 哲将	泌尿器科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	木村 文則	産科学婦人科学講座（女性）	401,415	補委	日本学術振興会

慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	竹林 明枝	産科学婦人科学講座 (女性)	39,000	補 委	日本学術 振興会
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	村上 節	産科学婦人科学講座 (女性)	39,000	補 委	日本学術 振興会
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	北澤 純	女性診療科	39,000	補 委	日本学術 振興会
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	森宗 愛菜	母子診療科	39,000	補 委	日本学術 振興会
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	中村 暁子	女性診療科	39,000	補 委	日本学術 振興会
鼻腔洗浄液中の細胞外小胞(エクソソーム、マイクロベシクル)による新規診断法の開発	清水 志乃	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	650,000	補 委	日本学術 振興会
小児1型糖尿病患者の自立支援のための自己管理能力・生活環境・生活の質に関する調査	松井 克之	小児科	650,000	補 委	日本学術 振興会
フライトナースにおける看護活動実践能力に関する研究	坂口 桃子	麻酔学講座	130,000	補 委	日本学術 振興会
重喫煙者の低線量CT画像による肺気腫の長期にわたる進展評価と関与する遺伝子の同定	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器 内科)	130,000	補 委	日本学術 振興会
癌焼灼療法用発熱材としてのバイオメタルの評価・極小化と焼灼療法器具への応用	新田 哲久	放射線医学講座	260,000	補 委	日本学術 振興会
ウサギVX2腫瘍モデルを用いたKORTUC動注併用放射線治療による抗腫瘍効果	友澤 裕樹	放射線医学講座	390,000	補 委	日本学術 振興会
敗血症患者における慢性期の自律神経障害と各種臓器障害の関係について	宮武 秀光	救急・集中治療部	390,000	補 委	日本学術 振興会

前立腺癌のSuper-Enhancerを介した増殖の分子機構の解明と治療への応用	永澤 誠之	泌尿器科	780,000	補委	日本学術振興会
SPION-NIの悪性腫瘍低酸素領域を標的としたセラノスティクスへの応用	吉野 美美	産科学婦人科学講座(女性)	520,000	補委	日本学術振興会
先天赤緑色覚異常における遺伝子アレーの研究	岩佐 真紀	眼科	260,000	補委	日本学術振興会
超高精細CTによる肺高血圧症早期診断及び治療効果判定の非侵襲的画像評価法の確立	永谷 幸裕	放射線科	390,000	補委	日本学術振興会
非発作性心房細動のリアルタイム映像化とその解析に基づくアブレーション新戦略の開発	芦原 貴司	情報総合センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
遺伝性不整脈疾患における筋小胞体膜蛋白質の遺伝子解析と機能異常	加藤 浩一	循環器内科	130,000	補委	日本学術振興会
脳のエネルギー代謝からみる慢性疼痛のメカニズムの解明	中西 美保	麻酔科	650,000	補委	日本学術振興会
ヒト臍帯由来間葉系細胞を用いた新規子宮内膜症治療法の開発	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座(母子)	910,000	補委	日本学術振興会
高度肥満症に対する外科治療の費用対効果に関する研究	山本 寛	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	910,000	補委	日本学術振興会
WPW症候群の顕在化メカニズム解明に向けたシミュレーション研究	芦原 貴司	情報総合センター	260,000	補委	日本学術振興会
多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するインシリコ研究	芦原 貴司	情報総合センター	195,000	補委	日本学術振興会
画像工学技術を用いて骨盤内を可視化した骨盤底筋訓練用動画の開発と効果検証	遠藤 善裕	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	69,000	補委	日本学術振興会

ファージディスプレイ法を用いた新生児低酸素性虚血性脳症に対する新規治療法の開発	樋口 明日香	産科学婦人科学講座	520,000	補委	日本学術振興会
ナノ粒子を用いた新生児低酸素性虚血性脳症に対する新規治療法の開発	信田 侑里	母子診療科	910,000	補委	日本学術振興会
骨形成不全症治療における、間葉系幹細胞の治療効果に関わる機序の検討	出口 真理	女性診療科	390,000	補委	日本学術振興会
超音波画像診断装置を用いたがん薬物療法における骨格筋量の推移の検討	炭本 佑佳	内科学講座（呼吸器内科）	650,000	補委	日本学術振興会
弱教師深層学習と計算解剖モデルの統合による肝臓がんの診断支援	金崎 周造	放射線医学講座	195,000	補委	日本学術振興会
Claudin9発現による癌免疫逃避機構の解明	三宅 亨	消化器外科	780,000	補委	日本学術振興会
インビトロ、インビボモデルの空間プロテオーム解析による大腸癌肝転移の分子機構解明	谷 眞至	外科学講座（消化器外科）	130,000	補委	日本学術振興会
副腎皮質に出現するプロインスリン陽性骨髄由来細胞の役割の解明	松村 一弘	家庭医療学講座	910,000	補委	日本学術振興会
小児C3腎症におけるC3分解活性は、新規の病勢指標として治療の最適化に寄与するか	澤井 俊宏	小児科	520,000	補委	日本学術振興会
肺がん間質線維芽細胞におけるCD271の機能解析と治療への応用	片岡 瑛子	外科学講座（呼吸器外科）	910,000	補委	日本学術振興会
周産期死亡症例のピアレビューによる死亡回避を目指した提言策定とその啓発	越田 繁樹	総合周産期母子医療センター	910,000	補委	日本学術振興会
睡眠呼吸障害対策による労働生産性向上の機構解明	角谷 寛	精神医学講座	65,000	補委	日本学術振興会

位相シンギュラリティに基づく心房細動のダイナミクス変容とロバスト性に関する研究	芦原 貴司	情報総合センター	130,000	補 委	日本学術振興会
メチオニン制限食による腎保護効果の臨床応用に向けて一ポリアミン代謝に着目して一	山原 康佑	内科学講座（腎臓内科）	910,000	補 委	日本学術振興会
よい睡眠とは何かを明らかにするための機械学習を用いた睡眠脳波の探索的研究	大道 智恵	精神医学講座	11,843	補 委	日本学術振興会
特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査	北川 裕利	麻酔学講座	1,948,000	補 委	厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	多賀 崇	小児科学講座	500,000	補 委	厚生労働省
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	福井 聖	ペインクリニック科	200,000	補 委	厚生労働省
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	福井 聖	ペインクリニック科	500,000	補 委	厚生労働省
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	福井 聖	ペインクリニック科	300,000	補 委	厚生労働省
慢性の痛み患者への就労支援/仕事と治療の両立支援および労働生産性の向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	福井 聖	ペインクリニック科	600,000	補 委	厚生労働省
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	岩下 成人	ペインクリニック科	300,000	補 委	厚生労働省
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	丸尾 良浩	小児科学講座	200,000	補 委	厚生労働省
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科学講座	250,000	補 委	厚生労働省

スモンに関する調査研究	山川 勇	内科学講座（脳神経 内科）	500,000	補 委	厚生労働 省
適切な睡眠・休養促進に	角谷 寛	精神医学講座	200,000	補 委	厚生労働 省
小児から成人期発症遺伝 性QT延長症候群の突然死 予防に関する研究	加藤 浩一	循環器内科	100,000	補 委	厚生労働 省
早産児ビリルビン脳症の 診療指針の改訂および包 括的診療体制の確立	丸尾 良浩	小児科学講座	200,000	補 委	厚生労働 省

計175件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Horii T., Tsujiimoto H., Hagiwara A. et al.	泌尿器科学講座	Effects of Fiber Diameter and Spacing Size of an Artificial Scaffold on the in Vivo Cellular Response and Tissue Remodeling	ACS Applied Bio Materials. 2021 Sep; 4(9): 6924-6936	Original Article
2	Sumi Y., Ubara A., Ozeki Y. et al.	精神医学講座	Minor hallucinations in isolated rapid eye movement sleep behavior disorder indicative of early phenoconversion: A preliminary study	Acta Neurologica Scandinavica. 2022 Mar; 145(3): 348-359	Original Article
3	Mizuno, Takayoshi Eguchi, Yutaka Tsujiita, Yasuyuki et al.	手術部	Mortality at 180-days is affected by serum haptoglobin levels in septic patients with high magnitude serum high mobility group box-1 levels	Acute medicine & surgery. 2022 Feb (オンライン)	Original Article
4	Kubota S., Kageyama S., Nagasawa M. et al.	泌尿器科	Long-term prostate-specific antigen response on a low-dose cabazitaxel regimen for metastatic castration-resistant prostate cancer: A case report	American Journal of Case Reports. 2021 Jul (オンライン)	Original Article
5	Hara S., Tojima I., Shimizu S. et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	17,18-Epoxyeicosatetraenoic Acid Inhibits TNF-alpha-Induced Inflammation in Cultured Human Airway Epithelium and LPS-Induced Murine Airway Inflammation	American Journal of Rhinology and Allergy. 2022 Jan; 36(1): 106-114	Original Article
6	Iida H., Tani M., Hirokawa F. et al.	消化器外科	Risk factors for incisional hernia according to different wound sites after open hepatectomy using combinations of vertical and horizontal incisions: A multicenter cohort study	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021 May; 5(5): 701-710	Original Article



7	Kurihara M., Bamba S., Yasuhara S. et al.	栄養治療部	Factors affecting energy metabolism and prognosis in patients with amyotrophic lateral sclerosis	Annals of Nutrition and Metabolism. 2021 Aug; 77(4): 236-243	Original Article
8	Hachiro K., Kinoshita T., Suzuki T. et al.	心臓血管外科	Impact of aortic valve replacement for aortic stenosis on coexisting mitral stenosis	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Oct; 27(5): 311-316	Original Article
9	Kamiya K., Nagatani Y., Matsubayashi Y. et al.	心臓血管外科	A Virtual-Reality Imaging Analysis of the Dynamic Aortic Root Anatomy	Annals of Thoracic Surgery. 2021 Dec; 112(6): 2077-2083	Original Article
10	Kinoshita T., Asai T., Suzuki T.	心臓血管外科	Outer Media Thickness at False Lumen and Secondary Aortic Dilatation After Acute Aortic Dissection	Annals of Thoracic Surgery. 2022 Mar (オンライン)	Original Article
11	Aoki K., Nagatani Y., Noma K. et al.	放射線科	Effective control of brain metastases irrespective of distance from isocenter in single-isocenter multitarget stereotactic radiosurgery	Anticancer Research. 2021 May; 41(5): 2575-2581	Original Article
12	Kubo M., Kumagai K., Maeda T. et al.	整形外科	Knee osteoarthritis with patellar dislocation treated by total knee arthroplasty using a lateral parapatellar approach—ingenuity of exposure and closure	Arthroplasty Today. 2021 Sep; 11: 173-177	Original Article
13	Kouzaki H., Arai Y., Nakamura K. et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Anti-inflammatory roles of interleukin-35 in the Pathogenesis of Japanese Cedar Pollinosis	Asia Pacific Allergy. 2021 Jul (オンライン)	Original Article
14	Iida H., Maehira H., Mori H. et al.	消化器外科	Attenuation around the gallbladder on plain abdominal computed tomography as a predictor of surgical difficulty in laparoscopic cholecystectomy	Asian journal of endoscopic surgery. 2021 Oct; 14(4): 724-731	Original Article

15	Inoue, Akitoshi Itabashi, Kentaro Iwai, Takayasu et al.	放射線科	Imaging findings of vitamin deficiencies: are they forgotten diseases?	BJR open. 2021 Nov; 3(1): 20210011	Original Article
16	Kawaguchi Y., Hanaoka J., Ohshio Y. et al.	呼吸器外科	Locoregional recurrence via mucus-mediated extension following lung resection for mucinous tumors	BMC Cancer. 2021 Apr; 21(1): 470	Original Article
17	Oki T., Nagatani Y., Saika W. et al.	放射線科	Detailed short-term follow-up high-resolution CT series of differentiation syndrome	BMJ Case Reports. 2022 Jan (オンライン)	Original Article
18	Kojima A., Mi X., Fukushima Y. et al.	救急集中治療医学講座	Elevation of propofol sensitivity of cardiac IKs channel by KCNE1 polymorphism D85N	British Journal of Pharmacology. 2021 Jul; 178(13): 2690-2708	Original Article
19	Noda S., Iida H., Fujimoto T. et al.	薬剤部	Exploratory analysis of target concentration of lenvatinib in the treatment of hepatocellular carcinoma	Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 2021 Aug; 88(2): 281-288	Original Article
20	Inoue A., Nitta N., Imai Y. et al.	放射線科	Effect of Portal Vein and Hepatic Artery Occlusion on Radiofrequency Ablation: Animal Experiment Comparing MR and Histology Measurements of the Ablation Zones	CardioVascular and Interventional Radiology. 2021 Nov; 44(11): 1790-1797	Original Article
21	Maeda T., Deguchi M., Amano T. et al.	母子診療科	A novel surgical treatment for labial adhesion - The combination of Z- and Y-V-plasty: A case report	Case Reports in Women's Health. 2021 Oct (オンライン)	Original Article
22	Fujimoto N., Dieterich L.C.	皮膚科学講座	Mechanisms and clinical significance of tumor lymphatic invasion	Cells. 2021 Sep; 10(10): 2585	Review

23	Sumi Y., Miyamoto T., Sudo S. et al.	精神医学講座	Explosive sound without external stimuli following electroencephalography kappa rhythm fluctuation: A case report	Cephalalgia. 2021 Nov; 41(13): 1396-1401	Original Article
24	Tsuji T., Yuri T., Terada T. et al.	産科学婦人科学講座(母子)	Application of enzymatic fluorometric assays to quantify phosphatidylcholine, phosphatidylethanolamine and sphingomyelin in human plasma lipoproteins	Chemistry and Physics of Lipids. 2021 Aug; 238:105102	Original Article
25	Hachiro K., Kinoshita T., Suzuki T. et al.	心臓血管外科	Bilateral Internal Thoracic Artery Grafting in Hemodialysis Patients	Circulation Journal. 2021 Oct; 85(11): 2004-2010	Original Article
26	Murao A., Kato T., Yamane T. et al.	救急・集中治療部	Benefit Profile of Thrombomodulin Alfa Combined with Antithrombin Concentrate in Patients with Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation	Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis. 2022 Feb (オンライン)	Original Article
27	Asada Y., Teramura C., Wada T. et al.	歯科口腔外科	Successful rechallenge with cetuximab after progression with nivolumab for recurrent cervical lymph node metastasis from carcinoma of the tongue	Clinical Case Reports. 2021 Jul (オンライン)	Original Article
28	Maehira H., Iida H., Mori H. et al.	消化器外科	Pathological complete response in a patient with metastatic pancreatic acinar cell carcinoma who received a chemotherapy regimen containing cisplatin and irinotecan	Clinical Journal of Gastroenterology. 2021 Dec; 14(6): 1772-1778	Original Article
29	Koike T., Kokubu H., Takahashi T. et al.	皮膚科	Spontaneous regression of hidroacanthoma simplex after skin biopsy	Dermatologica Sinica. 2021 Jul (オンライン)	Letter
30	Fuse M., Kobayashi Y., Kabuto M. et al.	皮膚科	Intravascular large B-cell lymphoma diagnosed by skin biopsy of a cellulitis-like skin lesion: Case report and review of literature	Dermatologica Sinica. 2022 Mar (オンライン)	Letter

31	Miyazawa I., Maegawa H., Kadota A. et al.	糖尿病内分泌内科	Eighteen-year trends in the management of patients with diabetes in the Shiga Diabetes Clinical Survey: overall trends and differences by age group	Diabetology International. 2022 Feb; 13(3): 566-574	Original Article
32	Shintani S., Inatomi O., Takeda Y. et al.	消化器内科	A case of massive bleeding after endoscopic sphincterotomy in a patient with a history of large walled-off pancreatic necrosis in the area of the pancreatic groove	Endoscopy. 2022 Feb (オンライン)	Others
33	Fukuyama, Megumi Horie, Minoru Aoki, Hisaaki et al.	内科学講座(循環器内科)	School-based routine screenings of electrocardiograms for the diagnosis of long QT syndrome.	Europace: European pacing, arrhythmias, and cardiac electrophysiology: journal. 2022 Jan (オンライン)	Original Article
34	Suzue T., Sawayama Y., Suzuki T. et al.	循環器内科	A rapidly growing cardiac calcified amorphous tumour diagnosed after coronary artery bypass graft surgery: A case report	European Heart Journal – Case Reports. 2021 Aug; 5(8): ytab243	Original Article
35	Seko-Nitta A., Nagatani Y., Murakami Y. et al.	放射線科	<sup>18</sup> F-fluorodeoxyglucose uptake in advanced gastric cancer correlates with histopathological subtypes and volume of tumor stroma	European Journal of Radiology. 2021 Dec; 145: 110048	Original Article
36	Takebayashi K., Murata S., Kodama H. et al.	消化器外科	Long-term prognosis of patients with cancer-related genes detected in postoperative peritoneal washings obtained during curative gastrectomy	European Journal of Surgical Oncology. 2022 Jan; 48(1): 177-182	Original Article
37	Miyake T., Mori H., Yasukawa D. et al.	消化器外科	The Comparison of Fecal Microbiota in Left-Side and Right-Side Human Colorectal Cancer	European Surgical Research. 2021 Jul; 62(4): 248-254	Original Article
38	Yamada S., Ishikawa M., Nozaki K.	脳神経外科	Exploring mechanisms of ventricular enlargement in idiopathic normal pressure hydrocephalus: a role of cerebrospinal fluid dynamics and motile cilia	Fluids and Barriers of the CNS. 2021 Apr; 18(1): 20	Review

39	Yamada S., Ishikawa M., Nakajima M. et al.	脳神経外科	Reconsidering Ventriculoperitoneal Shunt Surgery and Postoperative Shunt Valve Pressure Adjustment: Our Approaches Learned From Past Challenges and Failures	Frontiers in Neurology. 2022 Jan; 12: 798488	Review
40	Ohji M., Okada A.A., Sasaki K. et al.	眼科学講座	Relationship between retinal fluid and visual acuity in patients with exudative age- related macular degeneration treated with intravitreal aflibercept using a treat-and- extend regimen: subgroup and post-hoc analyses from the ALTAIR study	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2021 Dec; 259(12): 3637- 3647	Original Article
41	Matsumoto R., Saishin Y., Ohji M.	眼科	Evaluation of acquired color vision deficiency in retinal vein occlusion using the Rabin cone contrast test	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2021 Oct; 259(10): 2961- 2966	Original Article
42	Sawada T., Yasukawa T., Imaizumi H. et al.	眼科学講座	Ten-year changes in visual acuity at baseline and at 2 years after treatment in a Japanese population with age-related macular degeneration	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2021 May; 259(5): 1191- 1198	Original Article
43	Maehira H., Iida H., Maekawa T. et al.	消化器外科	Estimated functional remnant pancreatic volume predicts nonalcoholic fatty liver disease after pancreaticoduodenectomy: use of computed tomography attenuation value of the pancreas	HPB. 2021 May; 23(5): 802-811	Original Article
44	Iida H., Tani M., Komeda K. et al.	消化器外科	Superiority of CRP-albumin- lymphocyte index (CALLY index) as a non-invasive prognostic biomarker after hepatectomy for hepatocellular carcinoma	HPB. 2022 Jan; 24(1): 101-115	Original Article
45	Iida H., Maehira H., Mori H. et al.	消化器外科	Usefulness of measuring temporal changes in physical activity levels using an accelerometer for prediction and early detection of postoperative complications after hepatectomy	HPB. 2022 Jan; 24(1): 57-64	Original Article
46	Koide H., Noda S., Yoshida T. et al.	薬剤部	Severe skin disorders due to sorafenib use after nivolumab treatment in renal cell carcinoma patients	In Vivo. 2021 Sep; 35(5): 2969-2974	Original Article

47	Kondo Y., Suzuki T., Enomoto M. et al.	心臓血管外科	Psoas muscle size, possible sarcopenia and frailty, and long-term survival in elderly patients after isolated surgical aortic valve replacement for aortic stenosis	Indian Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2022 Mar; 38(2): 134-141	Original Article
48	Bamba S., Inatomi O., Takahashi K. et al.	栄養治療部	Assessment of Body Composition from CT Images at the Level of the Third Lumbar Vertebra in Inflammatory Bowel Disease	Inflammatory Bowel Diseases. 2021 Aug; 27(9): 1435-1442	Original Article
49	Hachiro K., Kinoshita T., Suzuki T. et al.	心臓血管外科	Internal thoracic artery graft ipsilateral to the arteriovenous fistula in haemodialysis patients	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2021 May; 32(6): 864-872	Original Article
50	Hachiro K., Kinoshita T., Suzuki T. et al.	心臓血管外科	Total arch replacement in octogenarians	Interactive cardiovascular and thoracic surgery. 2022 Jan; 34(2): 283-290	Original Article
51	Kaneko Y., Yagi N., Suzuki T. et al.	循環器内科	Syncope with Left Atrial Floating Thrombus during Anticoagulation	Internal Medicine. 2021 Oct; 60(20): 3343	Others
52	Kume, Shinji Yasuda- Yamahara, Mako Imamura- Uehara, Yoshimi et al.	腎臓内科	Improvement in Estimated Glomerular Filtration Rate Decline Rate after Febuxostat Treatment in a Fabry Disease Patient with Enzyme Replacement Therapy-resistant Proteinuria.	Internal medicine (Tokyo, Japan). 2022 Mar (オンライン)	Original Article
53	Hoshino S., Miyatake H., Maruo Y.	小児科	Using dynamic digital radiography to assess pulmonary circulation imaging in a patient with congenital heart disease	International Journal of Cardiovascular Imaging. 2021 Dec (オンライン)	Others
54	Maehira H., Tsuji Y., Iida H. et al.	消化器外科	Estimated tumor blood flow as a predictive imaging indicator of therapeutic response in pancreatic ductal adenocarcinoma: use of three-phase contrast-enhanced computed tomography	International Journal of Clinical Oncology. 2022 Feb; 27(2): 373-382	Original Article

55	Sakamoto K., Ono R., Doi T. et al.	小児科	Reduced incidence of hemophagocytic lymphohistiocytosis in Japan during the COVID-19 pandemic	International Journal of Hematology. 2022 Mar; 115(3): 446-448	Letter
56	Tsevegjav B., Takano A., Zhu M. et al.	臨床腫瘍学講座(腫瘍内科)	Holliday junction recognition protein as a prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer	International journal of oncology. 2022 Mar; 60(3): 26	Original Article
57	Zhu M., Takano A., Tsevegjav B. et al.	臨床腫瘍学講座(腫瘍内科)	Characterization of Opa interacting protein 5 as a new biomarker and therapeutic target for oral cancer	International journal of oncology. 2022 Mar; 60(3): 27	Original Article
58	Johnin K., Mori Y., Nakagawa S. et al.	泌尿器科	Venous malformation of the glans penis: "Every-5-mm" neodymium:yttrium-aluminum-garnet laser irradiation	International Journal of Urology. 2021 Nov; 28(11): 1189-1191	Original Article
59	Takaki K., Nitta N., Ota S. et al.	放射線科	Fat tissue as an embolic material changes the embolization time in a size-dependent manner: a basic investigation using rabbits	Japanese Journal of Radiology. 2021 May; 39(5): 503-510	Original Article
60	Kitahara H., Nagatani Y., Otani H. et al.	放射線科	A novel strategy to develop deep learning for image super-resolution using original ultra-high-resolution computed tomography images of lung as training dataset	Japanese Journal of Radiology. 2022 Jan; 40(1): 38-47	Original Article
61	Imai S.	整形外科科学講座	Graft-Augmented Repair of Irreparable Massive Rotator Cuff Tears with Latissimus Dorsi Transfer to Treat Pseudoparesis	JBJS Open Access. 2021 Nov (オンライン)	Original Article
62	Imai S.	整形外科科学講座	A Sequential Approach to the Management of Posterior Glenoid Defects in RSA: Angulated BIO Versus Multiple Bioresorbable Pinning-Assisted Structural Bone-Grafting	JBJS Open Access. 2021 Oct (オンライン)	Original Article

63	Kubo M., Maeda T., Kumagai K. et al.	整形外科	Good Postoperative Flexion Angle Improves Knee Function and Improvement of Flexion Angle Increases Patient Satisfaction After Total Knee Arthroplasty	Journal of Arthroplasty. 2021 Sep; 36(9): 3137-3140	Original Article
64	Matsubayashi J.	臨床研究開発センター	Letter to the editor: Inconsistencies between example data and calculation results in Bland, J. M., & Altman, D. G. (2007). Agreement between methods of measurement with multiple observations per individual	Journal of Biopharmaceutical Statistics. 2021 Nov; 31(6): 868-870	Letter
65	Ishihara M., Kojima A., Ding W.-G. et al.	麻酔科	Dexmedetomidine Exerts a Negative Chronotropic Action on Sinoatrial Node Cells Through the Activation of Imidazoline Receptors	Journal of cardiovascular pharmacology. 2021 Dec; 78(6): 826-838	Original Article
66	Ohno M., Imai T., Chatani M. et al.	消化器内科	The anti-inflammatory and protective role of interleukin-38 in inflammatory bowel disease	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2022 Jan; 70(1): 64-71	Original Article
67	Yamashita N., Imai T., Kawahara M. et al.	消化器内科	Low immunogenicity of vedolizumab determined by a simple drug-tolerant assay in patients with ulcerative colitis	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2022 Jan; 70(1): 72-78	Original Article
68	Fukui R., Hira D., Kunitsu Y. et al.	薬剤部	High incidence of major bleeding with off-label use of edoxaban	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2021 Nov; 69(3): 311-316	Original Article
69	Ban H., Inatomi O., Murata M. et al.	内科(消化器・血液)	Vonoprazan vs lansoprazole for the treatment of artificial gastric ulcer after endoscopic submucosal dissection: a prospective randomized comparative study	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2021 May; 68(3): 259-263	Original Article
70	Kokubu H., Hamaguchi Y., Kato T. et al.	皮膚科	Refractory myositis in a patient of Sjögren's syndrome having only anti-SS-A (60 kDa) antibody	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2021 Oct; 5(3): 102-103	Letter



71	Kokubu H., Kato T., Nishikawa J. et al.	皮膚科	Adverse effects of trimethoprim-sulfamethoxazole for the prophylaxis of Pneumocystis pneumonia in dermatology	Journal of Dermatology. 2021 Apr; 48(4): 542-546	Original Article
72	Nakanishi T., Kokubu H., Fujimoto N., Tanaka T.	皮膚科	Detection rate of pustules in palmoplantar pustulosis with dermoscopy	Journal of Dermatology. 2022 Feb; 49(2): 299-302	Original Article
73	Andoh A., Kawahara M., Imai T. et al.	内科学講座(消化器内科)	Thiopurine pharmacogenomics and pregnancy in inflammatory bowel disease	Journal of Gastroenterology. 2021 Oct; 56(10): 881-890	Review
74	Tsunoda H., Okami Y., Honda Y. et al.	総合診療部	Effectiveness of angiotensin converting enzyme inhibitors in preventing pneumonia: A systematic review and meta-analysis	Journal of General and Family Medicine. 2022 Mar; 23(4): 217-227	Review
75	Mori H., Iida H., Maehira H. et al.	消化器外科	Efficacy of novel microwave energy-based scissors device for laparoscopic liver resection	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. 2021 Dec (オンライン)	Others
76	Katsura D., Takahashi Y., Iwagaki S. et al.	母子診療科	Successful amnioinfusion for severe fetal growth restriction with umbilical cord complications: two case reports	Journal of Medical Case Reports. 2021 Jul; 15(1): 416	Original Article
77	Higuchi A., Tsuji S., Amano T. et al.	産科学婦人科学講座(女性)	Ovarian Leydig cell tumour diagnosis in a postmenopausal woman with uterine bleeding: a case report and literature review	Journal of Obstetrics and Gynaecology. 2022 Feb (オンライン)	Original Article
78	Hanada T., Kimura F., Kitazawa J. et al.	女性診療科	Impact of an oral gonadotropin-releasing hormone antagonist on severe ovarian hyperstimulation syndrome in a patient with breast cancer who received a sustained-release gonadotropin-releasing hormone agonist: A case report	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2021 Dec; 47(12): 4472-4477	Original Article

79	Kimura F., Hanada T., Nakamura A. et al.	産科学婦人科学講座(女性)	Case of adenomyosis causing the activation of the coagulation system after a complete loss of endometrium following microwave endometrial ablation	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2021 Sep; 47(9): 3385-3391	Original Article
80	Katsura D., Tsuji S., Hayashi K. et al.	母子診療科	Amniotic fluid neutrophil gelatinase-associated lipocalin and L-type fatty acid-binding protein in predicting fetal inflammatory response syndrome	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2021 Aug; 47(8): 2616-2622	Original Article
81	Ishizawa M., Okabe H., Matsumoto K. et al.	整形外科	Histopathological explanation of the MRI target sign in extra-axial schwannomas	Journal of Orthopaedic Science. 2021 Jul; 26(4): 660-665	Original Article
82	Mimura T., Shibata K., Tamura S. et al.	整形外科科学講座	Ischiofemoral impingement between the ischium and the posterior facet of the greater trochanter: A case report	Journal of Orthopaedic Science. 2021 May; 26(3): 500-504	Original Article
83	Morimune A., Kimura F., Moritani S. et al.	母子診療科	The association between chronic deciduitis and preeclampsia	Journal of Reproductive Immunology. 2022 Mar; 150: 103474	Original Article
84	Kume S.	内科学講座(腎臓内科)	Ketone bodies: back to a place in the sun	Kidney International. 2021 Nov; 100(5): 976-978	Others
85	Maehira H., Iida H., Mori H. et al.	消化器外科	Superior perianastomotic fluid collection in the early postoperative period affects pseudoaneurysm occurrence after pancreaticoduodenectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2021 Aug; 406(5): 1461-1468	Original Article
86	Taga T., Tanaka S., Hasegawa D. et al.	小児科学講座	Post-induction MRD by FCM and GATA1-PCR are significant prognostic factors for myeloid leukemia of Down syndrome	Leukemia. 2021 Sep; 35(9): 2508-2516	Original Article

87	Deguchi M., Tsuji S., Katsura D. et al.	女性診療科	Current overview of osteogenesis imperfecta	Medicina (Lithuania). 2021 May; 57(5): 464	Review
88	Inoue A., Ohta S., Imai Y. et al.	放射線科	Naturally shrunk visceral artery aneurysms by stenting for the superior mesenteric artery occlusion	Minimally Invasive Therapy and Allied Technologies. 2021 Aug; 30(4): 245-249	Original Article
89	Kumagai K., Okumura N., Amano Y. et al.	整形外科学講座	Consideration of differences in drug usage between young-onset and elderly-onset rheumatoid arthritis with target of low disease activity	Modern Rheumatology. 2021 Nov; 31(6): 1094-1099	Original Article
90	Sumi Y., Kadotani H., Ozeki Y.	精神医学講座	Correlation of Antidepressant Use and Symptom Time Period in Dream Enactment Behaviors	Movement Disorders Clinical Practice. 2021 Dec; 9(1): 130-131	Others
91	Iwai K., Komada R., Ohshio Y. et al.	リハビリテーション部	Evaluation of predictive factors related to the presence or absence of supplemental oxygen therapy and comparison of physical functions after video-assisted thoracic surgery	Nagoya Journal of Medical Science. 2021 Nov; 83(4): 801-810	Original Article
92	Takashima K., Hitosugi M.	救急・集中治療部	Underestimation of Trisomy 18 and 13 Syndromes in Vital Statistics from Inadequate Death Certificates	Neonatology. 2021 Nov (オンライン)	Letter
93	Tsuji, Keiichi Tsuji, Atsushi Yoshimura, Yayoi et al.	脳神経外科	Brainstem Venous Congestion Due to Transverse-sigmoid Sinus Dural Arteriovenous Fistula: Case Report and Literature Review	NMC case report journal. 2021 Sep; 8(1): 617-623	Case Report
94	Sumimoto, Hidetoshi Hayashi, Komaki Kimura, Yuri et al.	臨床腫瘍学講座(腫瘍内科)	Factors Associated with Cancer-Related Pain Requiring High-Dose Opioid Use in Palliative Cancer Patients	Palliative medicine reports. 2021 Sep; 2(1): 237-241	Original Article

95	Shintani S., Inatomi O., Bamba S. et al.	消化器内科	Larger Volume and Higher Fat Content of the Pancreatic Head Are Predictive Factors for Postendoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis	Pancreas. 2022 Jan; 51(1): 28-34	Original Article
96	Kushima R.	病理学講座(人体病 理学部門)	The updated WHO classification of digestive system tumours— gastric adenocarcinoma and dysplasia [Die aktuelle WHO- Klassifikation der Tumoren des Verdauungstrakts - Dysplasie und Adenokarzinom des Magens]	Pathologe. 2022 Feb; 43(1): 8-15	Review
97	Yuasa M., Kojima A., Mi X. et al.	麻酔科	Characterization and functional role of rapid- and slow- activating delayed rectifier K+ currents in atrioventricular node cells of guinea pigs	Pflugers Archiv European Journal of Physiology. 2021 Dec; 473(12): 1885-1898	Original Article
98	Isono T., Hira D., Morikochi A. et al.	薬剤部	Urine volume to hydration volume ratio is associated with pharmacokinetics of high-dose methotrexate in patients with primary central nervous system lymphoma	Pharmacology Research and Perspectives. 2021 Dec (オンライン)	Original Article
99	Sawayama Y., Yamaji K., Kohsaka S. et al.	循環器内科	Variation in in-hospital mortality and its association with percutaneous coronary intervention-related bleeding complications: A report from nationwide registry in Japan	PLoS ONE. 2021 Dec (オンライン)	Original Article
100	Obata S., Ichiyama Y., Matsumoto R. et al.	眼科	Effect of intravitreal bevacizumab for retinopathy of prematurity on weight gain	PLoS ONE. 2021 Dec (オンライン)	Original Article
101	Kawaguchi Y., Hanaoka J., Ohshio Y. et al.	呼吸器外科	Sarcopenia increases the risk of postoperative recurrence in patients with non-small cell lung cancer	PLoS ONE. 2021 Sep (オンライン)	Original Article
102	Obata S., Imamura T., Kakinoki M. et al.	眼科	Systemic adverse events after screening of retinopathy of prematurity with mydriatic	PLoS ONE. 2021 Sep (オンライン)	Original Article

103	Obata S., Kakinoki M., Sawada O. et al.	眼科	Effect of internal limiting membrane peeling on postoperative visual acuity in macula-off rhegmatogenous retinal detachment	PLoS ONE. 2021 Aug (オンライン)	Original Article
104	Morimune T., Tano A., Tanaka Y. et al.	小児科	Gm14230 controls Tbc1d24 cytoophidia and neuronal cellular juvenescence	PLoS ONE. 2021 Apr (オンライン)	Original Article
105	Obata S., Matsumoto R., Kakinoki M. et al.	眼科	Changes in fetal growth restriction and retinopathy of prematurity during the coronavirus disease 2019 pandemic: A crosssectional study	PLoS ONE. 2022 Mar (オンライン)	Original Article
106	Kunitsu Y., Hira D., Morikochi A. et al.	薬剤部	Time until onset of acute kidney injury by combination therapy with “Triple Whammy” drugs obtained from Japanese Adverse Drug Event Report database	PLoS ONE. 2022 Feb (オンライン)	Original Article
107	Okinaka Y., Kageyama S., Nishizawa K. et al.	泌尿器科	Clinical, pathological, and therapeutic features of newly diagnosed prostate cancer predominantly detected by opportunistic PSA screening: A survey of Shiga Prefecture, Japan	Prostate. 2021 Nov; 81(15): 1172-1178	Original Article
108	Chatani S., Seki K., Sonoda A. et al.	放射線科	Bleeding anorectal varices treated by a direct puncture approach through the greater sciatic foramen: The utility of a steerable microcatheter for reverse catheterization	Radiology Case Reports. 2022 Feb; 17(4): 1104-1109	Original Article
109	Higuchi, Asuka Tsuji, Shunichiro Nobuta, Yuri et al.	産科学婦人科学講座(女性)	Histopathological evaluation of cesarean scar defect in women with cesarean scar syndrome.	Reproductive medicine and biology. 2021 Dec (オンライン)	Original Article
110	Okamoto K., Shiratori T., Hanaoka J.	外科学講座(呼吸器外科)	A reliable fistula closure technique for refractory pneumothorax unresponsive to pleurodesis	Respiratory Medicine Case Reports. 2021 Jun; 33: 101442	Original Article

111	Ishigaki T., Asanuma T., Yagi N. et al.	検査部	Incremental value of early systolic lengthening and postsystolic shortening in detecting left anterior descending artery stenosis using nonstress speckle-tracking echocardiography	Scientific Reports. 2021 Sep (オンライン)	Original Article
112	Nakamura R., Kurihara M., Ogawa N. et al.	脳神経内科	Prognostic prediction by hypermetabolism varies depending on the nutritional status in early amyotrophic lateral sclerosis	Scientific Reports. 2021 Sep (オンライン)	Original Article
113	Koshida S., Tokoro S., Katsura D. et al.	総合周産期母子医療センター	Fetal movement counting is associated with the reduction of delayed maternal reaction after perceiving decreased fetal movements: a prospective study	Scientific Reports. 2021 May (オンライン)	Original Article
114	Nakamura R., Kurihara M., Ogawa N. et al.	脳神経内科	Investigation of the prognostic predictive value of serum lipid profiles in amyotrophic lateral sclerosis: roles of sex and hypermetabolism	Scientific Reports. 2022 Feb; 12(1): 1826	Original Article
115	Kinoshita T., Yoshida K., Suzuki T. et al.	心臓血管外科	Longitudinal Hemodynamics of Aortic Bioprosthetic Valve in Hemodialysis Patients	Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Sep (オンライン)	Original Article
116	Kadotani H.	精神医学講座	Japanese clinical guideline for sleep apnea syndrome (SAS)	Sleep and Biological Rhythms. 2021 Nov; 20(1): 3	Others
117	Yayama T., Mori K., Saito H. et al.	整形外科	Cytokine Profile From the Ligamentum Flavum in Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament in the Cervical Spine	Spine. 2022 Feb; 47(3): 277-285	Original Article
118	Kojima, Masatsugu Miyake, Toru Ueki, Tomoyuki et al.	消化器外科	INI1-negative colorectal undifferentiated carcinoma with rhabdoid features and postoperative rapidly growing liver metastases: a case report and review of the literature.	Surgical case reports. 2021 Apr; 7(1): 104	Original Article

119	Muramoto, Keiji Kaida, Sachiko Miyake, Toru et al.	消化器外科	Rare monomorphic epithelial intestinal T-cell lymphoma of the stomach with a giant gastric perforation rescued by liver-covering sutures followed by a total gastrectomy and lateral hepatectomy: a case report.	Surgical case reports. 2022 Feb; 8(1): 27	Case report
120	Katsura D., Tsuji S., Hayashi K. et al.	母子診療科	Amniotic fluid l-type fatty acid-binding protein in predicting fetal condition	Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2021 Aug; 254(4): 267-273	Original Article
121	Kurimoto, Naoki Inagaki, Takahiko Aoki, Takashi et al.	精神科	Factors causing a relapse of major depressive disorders following successful electroconvulsive therapy: A retrospective cohort study.	World journal of psychiatry. 2021 Oct; 11(10): 841-853	Original Article
122	Fujita Y., Haneda M.	糖尿病内分泌内科	Clinical practice of diabetic foot, nephropathy, and retinopathy in Japan: cross-sectional study using local and nationwide questionnaire surveys	Diabetology International. 2021 Nov; 13(3): 493-502	Original Article
123	Otowa Y, Yamakawa I, Ogawa N. et al.	脳神経内科	Amoebic encephalitis mimicking acute disseminated encephalomyelitis	Practical Neurology. 2021 Oct; 21(5): 433-434	Case report
124	Teramoto K, Igarashi T, Kataoka Y et al.	臨床腫瘍学講座(腫瘍内科)	Biphasic prognostic significance of PD-L1 expression status in patients with early- and locally advanced-stage non-small cell lung cancer	Cancer Immunol Immunother. 2021 Apr; 70(4): 1063-1074	Original Article
125	Chie Omichi, Hiroshi Kadotani, Yukiyoshi Sumi, et al	精神科	Prolonged Sleep Latency and Reduced REM Latency Are Associated with Depressive Symptoms in a Japanese Working Population	International journal of environmental research and public health. 2022 Feb; 19(4): 2112	Original Article
126	Fujii T, Arima H, Takashima N, et al.	脳神経外科	Seasonal Variation in Incidence of Stroke in a General Population of 1.4 Million Japanese: The Shiga Stroke Registry	Cerebrovasc Dis. 2022 Feb; 51(1): 75-81	Original Article

127	Nitta N, Usui N, Kondo A, et al.	脳神経外科	Neuropsychological outcomes after frontal lobectomy to treat intractable epilepsy	Epilepsy Behav. 2021 Oct; 123: 108240	Original Article
128	Tsuji K, Tsuji A, Yoshimura Y, et al.	脳神経外科	Ruptured of anterior communicating artery aneurysm after intravenous thrombolysis for acute ischemic stroke: a case report	J Neuroendovascular Ther. 2021Apr; 15(4): 240-245	Case report
129	Tsuji K, Tsuji A, Yoshimura Y, et al.	脳神経外科	Carotid cavernous fistula during thrombectomy for acute ischemic stroke: a case report	J Neuroendovascular Ther. 2021Jul; 15(7): 438-443	Case report
130	Yokoi T, Oba T, Kajihara R, et al.	脳神経外科	Local, multimodal intralesional therapy renders distant brain metastases susceptible to PD-L1 blockade in a preclinical model of triple-negative breast cancer	Sci Rep. 2021 Nov; 11(1): 21992	Review
131	Fujimoto Y, Ishibashi R, Maki Y, et al.	脳神経外科	A Simple Surgical Technique for Pediatric Sinus Pericranii: Intraoperative Manual Compression of a Major Shunting Point	Pediatr Neurosurg. 2021 May; 56(3): 286-291	Original Article
132	Katsura D, Takahashi Y, Iwagaki S. et al	母子診療科	Changes in the Intra-Amniotic Pressure following Transabdominal Amnioinfusion during Pregnancy	Biomed Hub. 2021 Oct; 6(3): 86-9	Original Article
133	Katsura D, Tsuji S, Hayashi K. et al	母子診療科	Predictive factors of labour onset using ultrasonography	J Obstet Gynaecol. 2021 Aug; 41(6): 870-875	Original Article
134	Tsuji T., Yuri T., Terada T. et al.	薬剤部	Application of enzymatic fluorometric assays to quantify phosphatidylcholine, phosphatidylethanolamine and sphingomyelin in human plasma lipoproteins	Chemistry and Physics of Lipids. 2021 Aug; 238: 105102	Original Article



135	Kaida S, Miyake T, Murata S et al.	消化器外科	A Prospective Multicenter Observational Study of Venous Thromboembolism after Gastric Cancer Surgery (SHISA-1601)	Eur Surg Res. 2021 May; 62(1): 10-17	Original Article
136	Kojima A, Mi X, Fukushima Y et al.	麻酔科	Elevation of propofol sensitivity of cardiac IKs channel by KCNE1 polymorphism D85N	Br J Pharmacol. 2021 Jul; 178(13): 2690-2708	Original Article
137	Kageyama S, Maeda K, Kubota S, et al.	泌尿器科	Single Short Retention Instillation of Pirarubicin Prevents Intravesical Recurrence of Low-risk Non Muscle Invasive Bladder Cancer.	In Vivo. 2021 Mar-Apr; 35(2): 1141-1145	Original Article

総計137件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 「国立大学法人滋賀医科大学倫理審査委員会規程」 「滋賀医科大学 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する手順書」 「研究の実施に伴って取得した個人情報等の安全管理措置に関する標準業務手順書」 「滋賀医科大学における病院臨床研究の倫理に関する委員会内規」 「滋賀医科大学における病院臨床研究の倫理に関する委員会申請に関する標準業務手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学認定臨床研究審査委員会規程」 「特定臨床研究における疾病等の発生および不具合に関する対応・報告のための標準業務手順書」 「臨床研究に関する研究責任医師並びに分担医師の責務」 「臨床研究法に基づく臨床研究に関する標準業務手順書」 「臨床研究に関する個人情報の取扱いに関する標準業務手順書」 「多施設共同研究における研究代表医師が委託する臨床研究審査委員会での審査に関する標準業務手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学特定認定再生医療等委員会規程」 「国立大学法人滋賀医科大学ヒトES細胞使用研究倫理審査委員会規程」 「国立大学法人滋賀医科大学ヒト ES 細胞使用規則」	
③ 倫理審査委員会の開催状況  2021年4月8日、5月13日、6月10日、7月8日、8月12日、9月9日、 10月14日、11月11日、12月9日、 2022年1月13日、2月10日、3月10日	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
---------------------------------------	--

② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>滋賀医科大学利益相反マネジメント規程において、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメント委員会の設置、アドバイザーの設置及び職員等の責務等を定めている。また組織的利益相反マネジメントについても委員会を設置し、役員、管理職の利益相反、組織的意思決定に関する利益相反のマネジメントも行っている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	<p>年 1 回</p> <p>(組織的利益相反)</p> <p>随時開催 (全件審査)</p> <p>(医学研究に係る利益相反)</p>

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p><b>【研究者用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年倫理指針ゲノム指針講習会 (2021. 4. 1～2021. 6. 16) (SUMS e-learning)</li> <li>・ 2021年人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針講習会 (2021. 6. 17～2022. 3. 31) (SUMS e-learning)</li> <li>・ ICR-web : 臨床研究の基礎知識講座 (旧 臨床研究入門初級編) (e-learning)</li> <li>・ APRIN : 01_責任ある研究行為 : 基盤編 (e-learning)</li> <li>・ ヒトES細胞研究を行う前に (SUMS e-learning)</li> </ul> <p><b>【委員/事務局用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倫理審査委員会委員教育 (Web)</li> <li>・ 臨床研究審査委員会委員教育 (Web)</li> <li>・ 滋賀医科大学における病院臨床研究の倫理に関する委員会委員教育 (Web)</li> <li>・ 特定認定再生医療等委員会委員教育 (Web)</li> </ul> <p>受講者数 (延べ) 866人</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 卒後 3 年目から 7 年目の医師を対象とし、実践的で高い臨床能力を持ち、倫理性・科学性に富む専門医の育成を目標としている。</li><li>・ プログラムコースは各診療科により若干異なるが、卒後 3 年目を滋賀医科大学医学部附属病院で研修した後、市中関連病院に 1～2 年間出向の後、滋賀医科大学医学部附属病院に戻る、あるいは更に別の関連病院に 1～2 年間勤務した後戻るといったコース編成となっている。</li></ul>
---

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	66	人
-------------	----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中川 義久	循環器内科	教授、診療科長	36年	
中野 恭幸	呼吸器内科	教授、診療科長	33年	アレルギー科を含む
安藤 朗	消化器内科	教授、診療科長	38年	
安藤 朗	血液内科	教授、診療科長	38年	感染症内科を含む
藤田 征弘	糖尿病内分泌内科	講師、診療科長	29年	代謝内科を含む
久米 真司	腎臓内科	講師、診療科長	23年	
漆谷 真	脳神経内科	教授、診療科長	31年	
丸尾 良浩	小児科	教授、診療科長	33年	アレルギー科を含む
尾関 祐二	精神科	教授、診療科長	29年	
藤本 徳毅	皮膚科	教授、診療科長	24年	アレルギー科を含む
谷 眞至	消化器外科	教授、診療科長	35年	
山口 剛	乳腺・小児・一般外科	講師、診療科長	25年	
鈴木 友彰	心臓血管外科	教授、診療科長	25年	
花岡 淳	呼吸器外科	病院教授、診療科長	32年	
今井 晋二	整形外科	教授、診療科長	33年	リウマチ科を含む
辻 篤司	脳神経外科	病院教授、診療科長	30年	
清水 猛史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授、診療科長	39年	アレルギー科を含む
村上 節	産婦人科	教授、診療科長	36年	
上仁 数義	泌尿器科	講師、診療科長	31年	
大路 正人	眼科	教授、診療科長	39年	
北川 裕利	麻酔科	教授、診療科長	31年	
渡邊 嘉之	放射線科	教授、診療科長	30年	
塩見 直人	救急科	教授、診療科長	27年	
山本 学	歯科口腔外科	教授、診療科長	40年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p> <p><b>【看護師】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 薬剤（麻薬・抗がん剤・インスリン・血液製剤等）、輸液管理、12誘導心電図・心電図モニター管理、人工呼吸器管理、急変時対応等について</li><li>・研修の期間・実施回数 2021年度(4月7日～2月26日)・64回</li><li>・研修の参加人数 72名</li></ul> <p><b>【薬剤師】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 薬剤師レジデントを対象に、がん薬物療法についての高度な知識・技術を習得することを目的に研修を実施した。</li><li>・研修の期間・実施回数 2021年4月1日～2022年3月25日・1名あたり13回</li><li>・研修の参加人数 3名</li></ul>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p> <p><b>【管理栄養士】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>①衛生管理</li><li>②栄養評価、栄養投与の決定、栄養療法の選択、経腸栄養、静脈栄養 病態栄養</li></ul></li><li>・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none"><li>① 衛生管理：2021年12月10日～12月28日（直接講習とオンデマンド講習）</li><li>② 上記以外：2021年4月1日、4月8日、4月15日、4月22日、4月29日、5月13日、5月20日、6月10日、6月24日、7月8日、7月29日、8月12日、8月26日、9月9日、10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日、12月23日、2022年1月13日、1月27日、2月10日、2月24日、3月10日</li></ul></li><li>・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none"><li>① 58名</li><li>② 15～17名</li></ul></li></ul> <p><b>【薬剤師】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 薬剤師を対象に、インシデントレポートの記載、疑義照会の分析、プレアボイド報告事例についての説明を行った（すべてweb開催）。</li><li>・研修の期間・実施回数 2021年4月19日、5月10日、2022年2月28日、3月7日、3月14日・計5回</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

2021年4月19日（28名）、5月10日（24名）、2022年2月28日（21名）、3月7日（23名）、3月14日（21名）・延べ117名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田中 俊宏
管理担当者氏名	事務部長 (病院担当) 鎌澤 幸彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	<p>2010年7月より電子カルテ化されており、内外共に永久保存されている。</p> <p>それ以前の紙の診療録等については、外来・入院別に1患者1ファイル方式によって永久一元番号で分類していた。</p> <p>紙の診療録について、最終受診日が2008年12月31日までの入院・外来診療録は、10年間の現物保管、10年を経過したものは光ファイリング作業実施後に廃棄。ただし、入院歴のない外来診療録は10年間の現物保管後、そのまま廃棄としていた。</p> <p>また、最終受診日が2009年1月1日以降の入院・外来診療録は、10年間現物保管、10年経過したものは光ファイリング作業を行い、最終受診日から10年経過したものから順次廃棄する。</p> <p>画像情報について、現在のシステムでは、保存期間10年を基本として、2011年4月以降の画像データは全て電子データ（非可逆圧縮データ）としてPACSにて保管している。</p> <p>それ以前の古いフィルム保存の画像情報は廃棄の予定である。</p> <p>紙の外来診療録の院外持出は、裁判の証拠書類等限られた理由のみで病歴部長及び病院長の承認が必要なため、診</p>
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
		ケリティマネジメント課	
各診療科			
薬剤部			
医務課			
医務課			
医務課			
放射線部			
医務課			
医務課			

				療情報管理係に「外来診療録室外病歴室持出し許可願」を提出する。 紙の入院診療録の院外持出は、病歴部長及び病院長の承認が必要であるので診療情報管理係に申出る。		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三項に掲げる事項	規則第二十二條の三第	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	病院情報システムのそれぞれの部門システムにて管理されている。法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。	
			高度の医療の提供の実績	クオリティマネジメント課		
			高度の医療技術の開発及び評価の実績	クオリティマネジメント課		
			高度の医療の研修の実績	クオリティマネジメント課		
			閲覧実績	総務企画課		
			紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課及び薬剤部			
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。
				医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
				医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部、放射線部、光学医療診療部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	クオリティマネジメント課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部、感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	クオリティマネジメント課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	上本 伸二
閲覧担当者氏名	叶 富士一
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階 総務企画課内 情報公開室
閲覧の手続の概要 開示請求者から「法人文書開示請求書」を受領後、「情報公開・個人情報保護審査委員会」の審議を経て、学長が開示・不開示の決定をする。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項</li> <li>3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7) 患者からの相談への対応に関する基本指針</li> <li>8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理の企画立案に関すること。</li> <li>(2) インシデント等の状況の分析に関すること。</li> <li>(3) 全死亡例に関すること。</li> <li>(4) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の適否結果及び従事者の遵守状況に関すること。</li> <li>(5) 本院で実施する臨床研究（以下「臨床研究」という。）の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合への対応に関すること。</li> <li>(6) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。</li> <li>(7) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。</li> <li>(8) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。</li> <li>(9) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること</li> <li>(10) 医療機器安全使用に関すること。</li> <li>(11) 医療放射線安全使用に関すること。</li> <li>(12) 院内で行われる、実習、研修など教育活動に伴う患者安全管理に関すること。</li> <li>(13) 医療安全マニュアルに関すること。</li> <li>(14) インシデントの公的機関への報告及び公表等に関すること。</li> <li>(15) 発生したインシデントの患者及び家族等への対応に関すること。</li> <li>(16) その他インシデント、医事紛争及び訴訟に関すること。</li> </ol>	
<p>③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況</p>	<p>年 3 回</p>
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告の共有</li> <li>2 安全な医療を提供するための要点とアレルギー がある薬の投与インシデントについて</li> <li>3 脳卒中の発症・再発予防と薬剤管理</li> </ol>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。
  - 2) 毎月の重要なインシデント及びその対策について各部署リスクマネジャーが周知し、情報の共有化を図っている。
  - 3) 院内ラウンドによるチェックを行っている。
  - 4) リスクマネジャー会議を開催し、医療安全管理部での検討事項、具体的な改善計画等の情報を伝達している

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項</li> <li>3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5) 院内感染発生時の対応の基本方針</li> <li>6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染予防対策の企画立案に関すること。</li> <li>2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。</li> <li>3) 感染予防対策マニュアルに関すること。</li> <li>4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。</li> <li>5) 感染予防対策に係る調査に関すること。</li> <li>6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。</li> <li>7) その他感染予防対策に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 標準予防策と経路別予防策</li> <li>2 新型コロナウイルスに対しての基礎知識</li> <li>3 感染症セミナー「感染症の診断と治療」</li> <li>4 感染症セミナー「細菌検査の検体採取方法とアンチバイオグラムについて」</li> <li>5 感染症セミナー「①抗菌薬適正使用へ向けて～PK/PD とTDM～ ②明日から使える細菌検査の見方」</li> <li>6 環境清掃のポイント</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。</li> <li>2) 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。</li> <li>3) 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>1) 2021. 4. 28～2022. 3. 31公開（e-learning） 研修医を対象に、薬剤部の役割と医薬品のオーダー方法について講義を行った（延べ38名視聴）</p> <p>2) 2021. 4. 7～9. 30公開（e-learning） 新人看護師を対象に、医薬品安全使用に関する講義を行った（延べ72名視聴）</p> <p>3) 2021. 12. 1～2022. 3. 31公開（e-learning） 院内医療従事者を対象に「脳卒中の発症・再発予防と薬剤管理」の講義を行った（延べ198名視聴）</p> <p>4) 2021. 7. 27 40病棟看護師研修会で、抗菌薬に関する講義を行った（9名参加）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、病棟・各部門における医薬品の管理、外来患者への医薬品使用、入院患者への医薬品使用、麻薬の取扱い、治験薬の取扱い、特定生物由来製品の取扱い、要管理薬（向精神薬・筋弛緩薬・覚醒剤等）の取扱い、未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の取扱い、院内製剤、医薬品情報の収集・管理・提供、外来化学療法部門、手術・麻酔部門、ICU、輸血・血液管理部門、画像診断部門、歯科領域、血液浄化部門、他施設との連携、重大な有害事象の予防・対応、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品</p> <p>2021年8月～9月に、院内各部署の担当医長・師長・薬剤師の3者で、手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。</p> <p>2022年2月に手順書の改訂（15版）を行った。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p>	

- 産痛緩和に対するレミフェンタニル静注用の使用
- Leigh脳症の患者に対して、慢性腎不全の治療目的でのレギュニール HCa 1.5腹膜透析液、レギュニール HCa 2.5腹膜透析液、レギュニール LCa 1.5腹膜透析液、レギュニール LCa 2.5腹膜透析液の使用
- トルソー症候群による脳梗塞の治療・再発予防目的でのプラザキサカプセルの使用
- ST合剤が使用できない小児免疫不全患者に対するPCP予防でのサムチレール内用懸濁液の使用
- 中期流産および早産の既往のある症例および流早産ハイリスク妊婦に対する流早産予防でのワンクリノン膣用ゲルの使用
- 胎児甲状腺機能低下症に対するチラーヂンS静注液の使用
- 唾液腺導管癌に対するビカルタミド錠、リユープリン酢酸塩注射用キットの使用
- 真菌性眼内炎に対するジフルカン静注液の使用
- 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防に対するケイツーシロップ使用
- 重症のCOVID-19患者に対するアクテムラ静注の使用
- CDK4遺伝子異常を伴う後腹膜脂肪肉腫に対するイブランス錠の使用
- CDK4遺伝子異常を伴う後腹膜脂肪肉腫に対するベージニオ錠の使用
- SARS-CoV-2感染に伴う消化管GVHD様反応に対するレミケード点滴静注用の使用
- トキソプラズマ症に対するホリナート（内服または注射）の使用
- 抗MAG抗体関連ニューロパチーに対するリツキシマブの使用
- COVID-19患者の治療のためのパルミコートタービュヘイラー、パルミコート吸入液の使用
- 超未熟児に対する早期母乳栄養目的でのドナーミルク（母乳バンクから提供）の使用
- SARS-CoV-2感染に伴う消化管GVHD様反応に対するプログラフ注射液の使用
- COVID-19に伴うGVHD様自己免疫性腸炎に対するジャカビ錠の使用
- 顆粒球輸血のための顆粒球採取目的でのフィルグラスチム注、デカドロン錠、ボルベン輸液の使用
- アントラサイクリン系抗がん剤の累積投与量の多い患児の心毒性軽減に対するサビーン点滴静注用の使用
- 先天性赤芽球癆/ダイヤモンド・ブラックファン貧血に対するリーバクト配合顆粒の使用
- GVHDに伴う消化管症状に対するベクロメタゾン腸溶性カプセル（院内製剤）の使用
- 妊娠中に血栓症を発症した場合、または血栓症既往や血栓性素因を有する妊婦の血栓症の発症または流産の予防目的に対するヘパリンの代替薬としてオルガラン静注の使用

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 新規の取り組み

- 2021年も2020年に引き続き薬剤部の医療安全目標を患者誤認防止とし、2021年度は新たに、病棟での持参薬報告の際は複数患者の電子化画面を展開しない等の患者誤認防止手順を追加した。

2) 継続的な取り組み

- 医薬品安全管理副責任者4名を任命し、院内の医薬品の使用状況の把握や安全性情報の伝達等を行っている。
- 緊急性を要する安全性情報や添付文書改訂情報は、随時、薬剤部から病院全職員にメール送信している。また、特定の診療科で使用する薬剤については、病棟薬剤師を通じ、該当医薬品を使用する医師や看護師等に直接情報を伝達し、周知を行っている。特に病院全職員に周知が必要な情報を月1回、紙ベース（クスリのリスクコミュニケーション）で回覧し、確認後、押印してもらい回収している。
- 医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを作成し、医薬品の採用削除、添付文書



改訂、安全性情報及び回収情報等を閲覧できるようにしている。検索機能もあるため、過去情報の検索も可能である。

- 医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。医薬品添付文書情報だけでなく、添付文書改訂情報や薬剤部で作成したハイリスク薬や術前中止薬一覧等も掲載され、医師がオーダー時に参照可能である。
- 厚労省に報告した副作用情報は、薬事委員会に報告し、安全使用のための改善策や院内への周知広報について協議を行っている。
- 患者支援センターに薬剤師が常駐し、処方薬や市販薬・サプリメント等の使用状況を把握し、術前中止薬の有無について確認を行っている。
- 使用が承認された未承認等の医薬品の情報は、該当する病棟の担当薬剤師に連絡し、使用状況や有害作用の発生の有無を定期的に確認し、必要なら是正を指導する。また、リスク分類を行い、ハイリスクに分類されたものについては、項目を決め、モニタリングの強化を行っている。
- 併用禁忌薬、妊婦禁忌薬、アレルギー禁忌薬、及び病態禁忌薬は、電子カルテシステム及び部門システムで処方状況を把握し、薬剤部内リスクマネジメント会議において、使用状況や不適切な使用の有無を確認し、必要なら病棟薬剤師を通じて是正を指導する。
- 疑義照会記録はデータベース化し、特に注意すべきものについて、薬剤部内で情報共有している。情報共有したもの以外のデータについても、必要時には検索・照会が可能である。
- 調剤の画像鑑査システムを導入し間違いを防止している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規中途採用者研修（医師、看護師、メディカルスタッフ）</li> <li>・ 新規中途採用者医師研修</li> <li>・ 新規中途採用者看護師研修</li> <li>・ 新規採用研修医研修</li> <li>・ 新規採用看護師（新卒）研修</li> <li>・ e-Learningによる9機種の使用に対する研修会を実施 （PCPS、IABP、人工呼吸器、血液浄化装置、保育器、除細動器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、ベッドサイドモニタ）</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>年1回のメーカーによる保守点検</li> <li>シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、麻酔器、人工心肺装置、PCPS、IABP、保育器、透析装置（CHDF等含む）、da Vinci（年2回）</li> </ul> </li> </ul> <p>臨床工学部による月1回または3か月に1回、年1回の定期点検の実施 除細動器、人工呼吸器、麻酔器、PCPS、IABP（各月1回） 透析装置「CHDF等含む」、電気メス、（各3か月1回）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>PMDAからの情報収集及びメーカーによる情報収集を行っている。</li> <li>臨床工学部より医療機器の安全使用のためのニュースレターを定期的に出している。</li> <li>医療機器安全管理情報のホームページを作成し、ニュースレターやお知らせ文書などを掲載している。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/>・歯科医師)</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>医療安全管理責任者を副病院長(医療安全等担当)とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (2名) ・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤部医薬品情報管理室で情報の収集・整理を行っている。また、iPicを用いて情報発信するとともに、毎月「クスリのリスクコミュニケーション」を発行し、回覧することにより周知している。</li> </ul> </li> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>適応外・禁忌医薬品・未承認医薬品等の使用について審査手順書を作成している。</li> <li>平成29年4月より高難度医療・未承認医薬品等管理室が窓口となり、「未承認・未認証・未届・適応外・禁忌・禁止に該当するレジメン使用申請書」、「国内未承認・適応外・禁忌に該当する医薬品の臨床使用申請書」を受け、医薬品安全管理責任者が委員長でもある治療担当部門の薬事委員会での正審査を行っている。</li> </ul> </li> <li>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</li> <li>・担当者の所属・職種： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )</td> <td style="width: 50%;">(所属： ， 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種 )</td> <td>(所属： ， 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種 )</td> <td>(所属： ， 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種 )</td> <td>(所属： ， 職種 )</td> </tr> </table> </li> </ul>		(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の実行者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容医師・看護師で構成しているワーキンググループにおいて、説明・同意書がマニュアルに沿った構成であるかを確認のうえ使用している。</li> </ul>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：  責任者の指示の下、患者目線と医療者目線での評価基準を設け、同意書や治療に関する説明の有無および診療記録の内容について、多職種による監査を行っている。また、監査結果を病歴部連絡協議会で報告し、今後、記載の充実を図るべき内容について指導を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（ ）名、兼任（11）名  うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名  （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：  (1) インシデント防止の推進に関すること。  (2) インシデント発生時の調査及び分析に関すること。  (3) インシデント等に関する事例、対策等の情報収集に関すること。  (4) 全死亡例に関する、集計、分析、報告等に関すること。  (5) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。  (6) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。  (7) 医療安全管理に関する教育、研修等の企画及び実施に関すること。  (8) 医療安全に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。  (9) 医療安全マニュアルの作成に関すること。  (10) 医療安全に関する広報・啓発活動に関すること。  (11) リスクマネジャー会議・事例検討会等に関すること。  (12) 本院で実施する臨床研究の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合へ情報収集に関すること。  (13) その他医療安全の推進に関すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）  ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）  ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：  各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。  各評価委員会は高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。</p>	

高難度新規医療技術の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (48 件) 、及び許可件数 (46 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。

各評価委員会は未承認医薬品等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。

未承認医薬品等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 211 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 152 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理委員会で周術期死亡、術後在院死亡の事例について報告し、必要に応じて事例検討会、事例調査検討委員会を開催し原因、対策等について検討している。また、関係部署での M&M カンファレンスの実施指導を行っている。また、影響レベル 3b 以上の事象や合併症報告などに関しても医療安全管理委員会で報告し、原因対策等について検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名 : 大阪市立大学 ) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名 : 大阪大学 ) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

令和3年度 特定機能病院間相互のピアレビューは、書面による実施であり、技術的助言は特になかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者支援センター内に患者相談窓口を設置し、医療安全及び医療上のインシデントに関する相談については、医療安全管理者と連携して対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

2021年6月23日 e-learning 開講 インシデント報告の共有

2021年6月23日 e-learning 開講 安全な医療を提供するための要点とアレルギーがある薬の投与インシデントについて

2021年12月1日 e-learning 開講 脳卒中の発症・再発予防と薬剤管理

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2021年度特定機能病院管理者研修を受講

管理者・・・第5回(2022.1.25)

医療安全管理責任者・・・第3回(2021.12.23)

医薬品安全管理責任者・・・第3回(2022.2.2)

医療機器安全管理責任者・・・第6回(2022.2.14)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構

認定期間：2019年2月16日～2024年2月15日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページに病院機能評価認定証取得についてのページを設け、公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの審査結果公開ページのリンクを貼ることで結果を公表している。  
なお、医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

・評価を踏まえ講じた措置

医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 優れた学識、豊かな人間性と高い倫理観を持つ医師であり、大学における教育・研究・診療活動を適切にかつ効率的に運営することができる者。  
※医学系教授の経験を有する者が望ましい。
2. 医療安全管理業務の経験と、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者。  
※医療安全管理業務の経験とは下記のいずれかの業務に従事した経験を有するものであること。
  - ①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務
  - ②医療安全管理委員会の構成員としての業務
  - ③医療安全管理部門における業務
  - ④その他上記に準じる業務
3. 附属病院または附属病院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者  
※病院長または副病院長の経験を有することが望ましい。
4. 「滋賀医科大学医学部附属病院の理念及び基本方針」及び「滋賀医科大学中期目標（附属病院に関する目標）等」に基づいた病院運営を遂行できる者。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（  有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

本学ホームページに掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無

有 ・ 無

- ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（  有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

本学ホームページに掲載している。

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
遠山 育夫	理事（研究・企画・国際担当）	○	滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
松浦 博	理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
大路 正人	眼科学講座 教授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第2号に基づき学長が指名する教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
漆谷 真	内科学講座（脳神経内科） 教授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第2号に基づき学長が指名する教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
村上 節	副病院長（企画・評価担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名する副病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
小寺 利美	副病院長（看護担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名する副病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
森田 陸司	医療法人医仁会武田総合病院名誉院長		大学病院及び民間病院の病院長として、医学・医療安全について豊富な経験等を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
金子 隆昭	一般社団法人滋賀県病院協会会長・彦根市立病院院長		滋賀県病院協会会長・彦根市立病院の病院長として、医学・医療安全について豊富な経験等を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会理事長		滋賀医科大学経営協議会委員、学長選考会議委員として、本学の重要事項の決定に参画いただいております。豊富な経験や高い見識を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無



規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の将来計画に関する事項</p> <p>(2) 病院の運営に係る中期目標・中期計画・年度計画に関する事項</p> <p>(3) 診療体制のあり方に関する事項</p> <p>(4) 病院の経営方針に関する事項</p> <p>(5) 病院の予算及び決算に関する事項</p> <p>(6) 病院の評価結果に基づく改善等に関する事項</p> <p>(7) その他病院の管理運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>学内ホームページに毎月の議事録を掲載し、メールで職員に周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田中 俊宏	○	医師	病院長
村上 節		医師	副病院長
大路 正人		医師	副病院長
北川 裕利		医師	副病院長
今井 晋二		医師	副病院長
小寺 利美		看護師	副病院長
鎌澤 幸彦		事務	副病院長
漆谷 真		医師	病院長補佐
國友 陵一		事務	病院長補佐
中野 恭幸		医師	病院長補佐
中川 義久		医師	教授
谷 眞至		医師	教授
渡邊 嘉之		医師	教授
森田 真也		薬剤師	部長
芦原 貴司		医師	部長
川崎 拓		医師	センター長
辻 俊一郎		医師	病棟医長連絡協議会委員長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
本学ホームページに掲載している。

・ 規程の主な内容

○病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限

人事権：国立大学法人滋賀医科大学文書決裁規程

第5条 前条の規定にかかわらず、別表第2の事項欄に掲げる事項の決裁については、専決者欄に掲げる者が専決する。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

(別表第2) ※該当箇所抜粋

区分	事項	名義者	専決者
人事課	(7) 附属病院に係る職員（教員を除く。）の任免及び給与に関するもの	学長	病院長
	(8) 病院規程第10条から第12条及び第13条第8項に定める科長等の命免に関するもの	学長	病院長

予算執行権限：国立大学法人滋賀医科大学予算規則

第4条 会計規程第5条第2項に定める予算単位及び予算責任者は別表1のとおりとする。

(別表1 (第4条関係) 予算単位及び予算責任者) ※該当箇所抜粋

区分	予算単位	予算責任者
医学部附属病院	国立大学法人滋賀医科大学学則第10条に定める附属病院	病院長

○その他

医療安全等の確保のための診療等停止権限

：滋賀医科大学医学部附属病院における医療安全等の確保に関する内規

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

○病院に病院長を補佐し、職務を分担するため、次に掲げる副病院長を置く。

(1) 副病院長（医療安全等担当）

病院における安全管理及び感染対策等の危機管理に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(2) 副病院長（企画・評価担当）

病院における企画及び評価に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(3) 副病院長（労務・診療担当）

病院における労務及び診療に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(4) 副病院長（教育・臨床研究担当）

病院における教育及び臨床研究開発の支援に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(5) 副病院長（看護担当）

病院における看護に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(6) 副病院長（事務統括・働き方改革担当）

病院における事務統括及び働き方改革に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

○病院長は、特定の業務について処理させるため、次に掲げる病院長補佐を指名することができる。

(1) 病院長補佐（新興感染症担当）

新興感染症に関する職務を担当する。

(2) 病院長補佐（広報・地域連携担当）

病院の広報及び地域医療機関との連携に関する職務を担当する。

(3) 病院長補佐（経営・機能強化担当）

病院の経営及び病院の機能強化に関する職務を担当する。

○事務部長は、病院長を補佐し、病院における経営、医療サービス、施設管理、臨床研究その他病院の管理運営に関する事務を掌理する。

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

○令和4年2月17日 第3回病院経営次世代リーダー養成塾（WEB）

<参加者>

- ・ 副病院長（医療安全担当） 野崎 和彦
- ・ 副看護部長 崎花 尚美

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理についての業務方法書及び規則等の整備状況に関すること。</p> <p>(2) 関係法令，業務方法書，規則等に基づく業務の実施状況に関すること。</p> <p>(3) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の行うべき業務の状況に関すること。</p> <p>(4) 医療安全管理部の体制及び業務の状況に関すること。</p> <p>(5) 医療安全管理委員会の業務の状況に関すること。</p> <p>(6) その他本院における医療安全管理体制に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページに掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
西川 甫			医療を受ける者の立場から意見を述べる	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企画・国際担当）の立場で意見を述べる	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）の立場で意見を述べる	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務が法令に適合することを確認し、病院の健全な運営に資するために、専門部署として学長の下に「監査室」を設置しており、病院の運営状況を公正かつ客観的に調査及び検証するなど、内部監査を企画立案し実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

大学ホームページに掲載している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</li> </ul> <p>法人に重要事項を議決する機関として、学長及び理事をもって組織される役員会を設置しており、病院規程に定める組織（診療科、中央診療部等）の設置、廃止等ならびに重要な人事（部局長等の選考、看護部長の選考）については、当該合議体の議決事項として定めている。</p> <p>また、管理者から毎月開催している病院管理運営会議の審議内容を報告させ、病院の管理運営状況を監督している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議体の実施状況（ 年28回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年28回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 大学ホームページに役員会規程を掲載している。</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年〇件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 全学メールにて周知</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 附属病院ホームページにて、Q I（クオリティ・インディケーター）や本院の特色ある医療等を公開している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  緩和ケア：腫瘍内科、小児科、精神科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、乳腺・小児 ・一般外科、呼吸器外科、女性診療科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科 感染対策：呼吸器内科、小児科、歯科口腔外科、消化器外科、乳腺・小児・一般外科 栄養サポート：消化器内科、乳腺・小児・一般外科、消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科 周術期：麻酔科、消化器外科、乳腺・小児・一般外科、歯科口腔外科 肥満外科治療：消化器外科、乳腺・小児・一般外科、糖尿病内分泌内科、歯科口腔外科、精神科 フットケア：糖尿病内分泌内科、皮膚科、整形外科 ハートケア：循環器内科、歯科口腔外科、リハビリテーション科 抗菌薬適正使用支援：感染制御部、呼吸器内科 呼吸ケア：呼吸器内科、救急・集中治療部 認知症ケア：精神科、脳神経内科 糖尿病透析予防診療：糖尿病内分泌内科、腎臓内科 摂食嚥下支援：耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科 早期離床・リハビリテーション：救急・集中治療部、心臓血管外科	